

KORG  AI² Synthesis System

CONCERT

KORG DIGITAL PIANO

お買い上げいただきありがとうございます。
本製品を末永くご愛用いただくためにもこの
取扱説明書をよくお読みになって、正しい方
法でご使用ください。

FC-500
取扱説明書

安全上のご注意



注意
感電の恐れあり
キャビネットをあげるな



マークについて
この機器に表示されているマークには、次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、注意喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには以下の指示を守ってください。

ピアノはご家庭の中で身近に置かれ、お子様から専門家の方まで幅広くご愛用いただくものです。ピアノは大きくて重いものですので、室内での置き場所や日常の取り扱いについて、安全にご使用いただくための注意をお願いします。小さなお子様には、最初にご家族の方から教えてあげてください。



警告



● 本製品を使用する前に、以下の指示をよく読んでください。

● 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。

● 設置は水平で平らな床面に行なってください。

● 本製品を移動する時に引きずって行なうと床面を傷付けるばかりでなく、思わぬ事故を起こしかねません。必ず2人以上で持ち上げて移動してください。

● 次のような場合には、直ちに電源を切って電源コードをコンセントから外し、コルグ営業所、またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。

- 電源コードやプラグが破損したとき
- 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたとき
- 製品が（雨などで）濡れたとき
- 製品に異常や故障が生じたとき

● 次のような場所での使用や保存はしないでください。

- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など：外装等の変形や火災の原因になります。）
- 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
- ホコリの多い場所
- 振動の多い場所



● 本製品はキーカバーまたは譜面立ての開閉時に指や手を挟みこむ恐れがありますので、十分注意してください。



● 修理／部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは、絶対にしないでください。必ず最寄りのコルグ営業所またはコルグ営業技術課に相談してください。

● 本製品の上に上がったり、下にもぐり込んだりして遊ばないでください。

● 本製品の上に物を置かないでください。落ちると危険です。

● 本体に前後方向から無理な力を加えないでください。転倒の危険性があります。

● 地震の時はピアノに近づかないでください。

● 電源コードを無理に曲げたり、上に重いものを乗せたりしないでください。電源コードに傷がつき危険です。

● 本製品を単独で、あるいはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては、永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量や不快を感じる音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。

● 本製品に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水やジュースなど）を絶対にいれないでください。



● この機器を分解したり、改造したりしないでください。

警告 (スタンド・イス)



- 付属のスタンドは「スタンドの組み立て方」(38ページ)に従って必ずピアノ本体を設置のうえ、使用してください。その際、必ずペダル用コネクターを[PEDAL]端子に差し込んでください。
- 付属のスタンドは長い時間が経つとスタンドのネジが緩み、スタンドの揺れがはげしくなる場合があります。このようなときには、安全のため「スタンドの組み立て方」に従って、ネジを締め直してください。
- 本製品を移動するときはピアノ本体からスタンドを取り外して、別々に移動してください。移動後「スタンドの組み立て方」(38ページ)に従い、再設置を行ってください。



● 付属の椅子はピアノの演奏用のみに使用してください。椅子で遊んだり、踏台にすると転倒したり壊れたりして危険です。

● 付属の椅子は一人用です。二人以上で腰掛けないでください。



● 付属の椅子の高さ調節は椅子から降りて確実に行ってください。腰掛けのまま行なうと手を挟むことなどがあり危険です。



注意



● 本製品は正常な通気が妨げられることのない所に設置して、使用してください。

● 本製品はマイクロコンピュータを使用した機器です。このためラジオやテレビなどを接近して同時にご使用になりますと、それらに雑音が入ることがあります。逆にラジオ、テレビ、その他の電子機器から本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。ラジオ、テレビ、その他の電子機器などからは充分に離してご使用ください。

● 他の電気機器の電源コードといっしょのタコ足配線は危険です。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

● スイッチやつまみに必要以上の力を加えますと故障の原因となりますので注意してください。

● 長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。



● 外装のお手入れは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体は絶対にご使用にならないでください。(コンパウンド質、強燃性のポリッシャーも不可)。

● 製品をお買い上げいただいた日より一年間は、保証期間となり、修理は無償となりますが、保証書に購入店での手続きがない場合は無効となります。保証書は必ずお求めになった販売店で所定の手続きを行った後、大切に保管してください。

● 今後の参照のために、この取扱説明書はお読みになった後も大切に保管してください。



● 電源コードをコンセントに抜き差しするときは、必ず電源プラグを持ってください。



バックアップバッテリーについて

本製品は、電源オフ後に内蔵メモリーの内容が消滅するのを防ぐために、バックアップ用バッテリーを装備しています。LED画面に“Lo”の表示が出たら、バッテリーの交換を行う必要がありますので、最寄りのコルグ製品取扱店または(株)コルグ営業技術課までお問い合わせください。

- “LO”表示を消すには、[MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押します。

データについて

万一異常な動作をしたときに、メモリーの内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータは外部のデータファイラー(記憶装置)等にセーブしておいてください。(34ページ)また、データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

目次

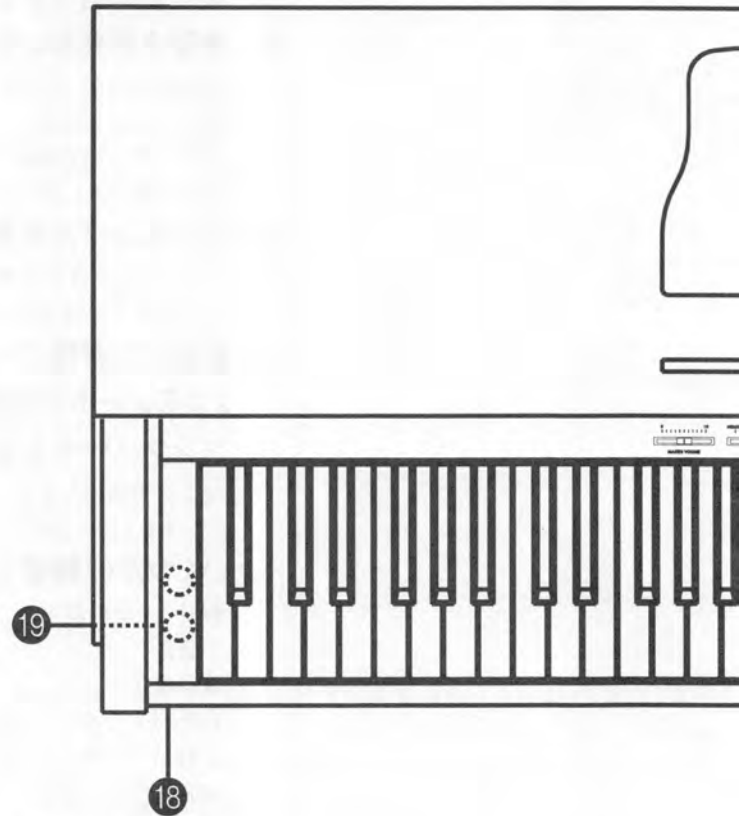
はじめに	ii
安全上のご注意	ii
バックアップバッテリーについて	iii
データについて	iii
1. 各部の名称とその機能	2
2. 演奏するための準備	4
電源コードを差し込みます	4
電源をオンにします	4
キーカバーを開けます	4
音量を調節します	4
ヘッドホンを使うときは	4
譜面立てを使うときは	4
3. デモ演奏を聴いてみましょう	5
弾いてみましょう	6
1. 音色を選びます	6
音色グループから音色を選ぶには	6
[BASS]音色リスト	7
2つの[音色セレクター]を同時に鳴らすには	7
2. 音色に残響や広がりを与えます	8
音に残響を与えます	8
音に広がりを与えます	8
音の明るさを調節します	8
3. ペダルを使った効果	9
ソフトペダル	9
ソステヌートペダル	9
ダンパーペダル	9
レイヤー時のペダルの設定	9
4. メトロノームに合わせて演奏します	10
メトロノームを鳴らします	10
テンポを調節します	10
拍子を設定します	10
音量を調節します	11
拍子のアクセント音を選択します	11
音色などが思うとおりに設定できないときは	11
5. 鍵盤のタッチ感を変えます	12
6. 弾きやすく、歌いやすくします(移調)	13
7. 音程のずれを微調整します	14
“ヘルツ”単位と“セント”単位を切り替えるには	14
8. 音律を選びます	15
キー(調)を設定するには	16

演奏を録音/再生してみよう	17
1. 演奏を録音します	17
2. 演奏を再生します	19
演奏の速さ(テンポ)を変えるには	19
音色を変えるには	19
演奏する小節を移動するには	20
演奏を繰り返し聴くには	20
3. アンサンブルを楽しむには	22
パートごとの音量を調節するには	22
マイナスイオン演奏をするには	23
4. 録音した演奏データのタイミングを整えるには	24
5. 2つのパートの演奏データを1つのパートにまとめるには	25
6. ソング/パートを消去します	26
ソングを消去します	26
パートを消去します	26
7. いくつかの録音方法	27
録音モードの設定	27
上書き	27
重ね書き	27
自動パンチイン/アウト	28
手動パンチイン/アウト	29
録音可能なメモリーの残量表示	29
他の機器との接続	30
1. シンセサイザーやオーディオ機器との接続	30
2. MIDI機器との接続	31
3. コンピュータとの接続	35
資料	38
1. スタンドの組み立て方	38
2. KORG MIDI Driverのインストールとセットアップ	40
3. MIDIインプリメンテーション	47
4. [DRUM KIT](ドラムキット)マップ	50
5. 操作スイッチ機能一覧	50
6. LED画面のメッセージ	52
7. 設定の初期化	52
8. 故障とお思いになる前に	53
9. 索引	54
10. 仕様	55

1. 各部の名称とその機能

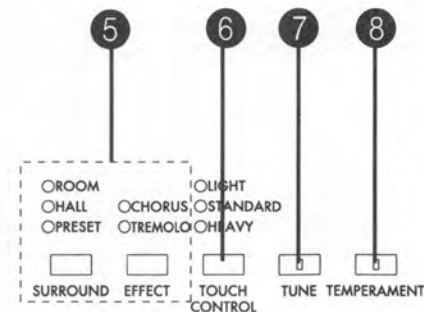
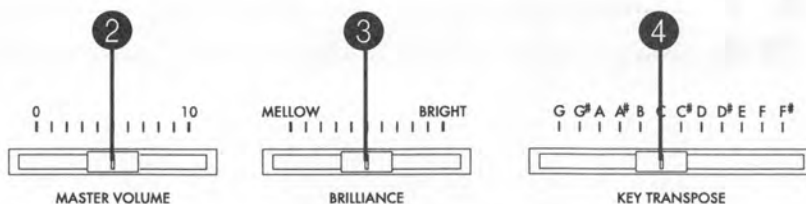
スイッチ類の表記

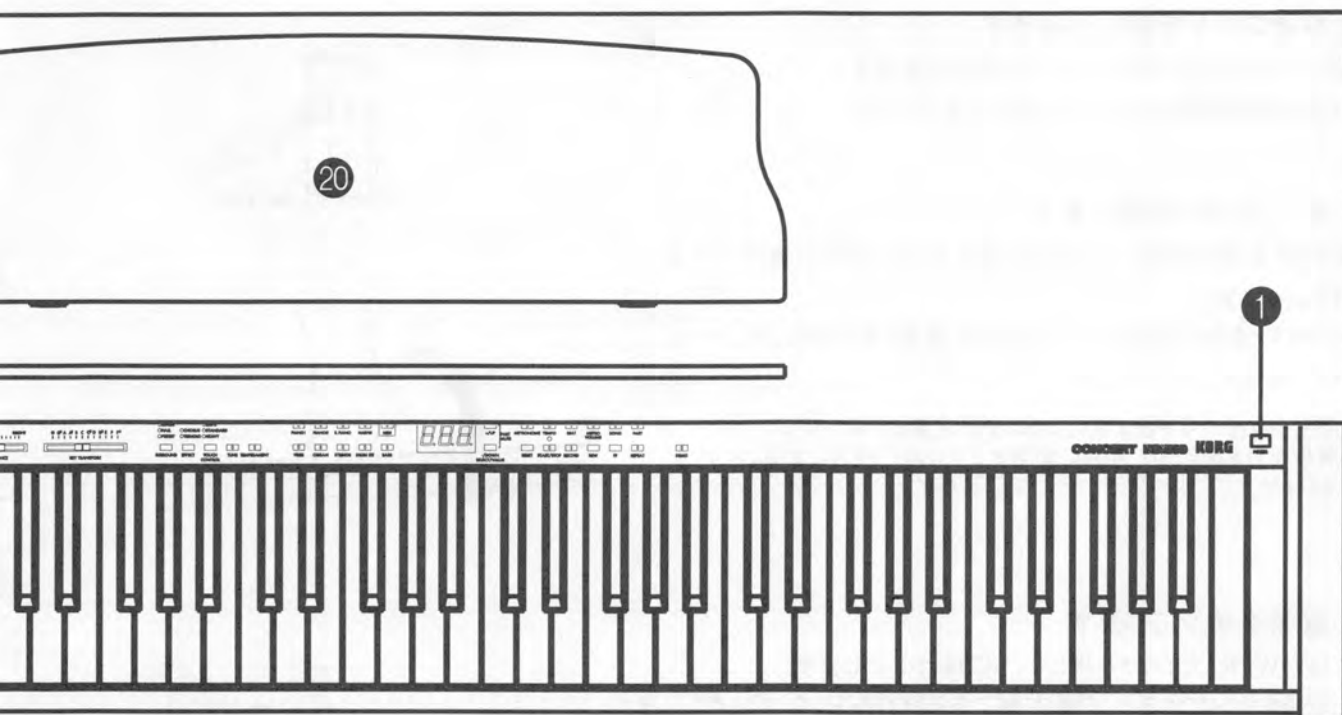
本体のスイッチ類は [] で括弧しています。
スイッチランプの点灯・点滅・消灯は次のように表します。



- ① パワースイッチ
電源をオン、オフします。押すたびにオンオフが切り替わります。
[POWER] スイッチ (p.4)
- ② マスターボリューム
スピーカーやヘッドホンから出る音量をコントロールするスライダです。
[MASTER VOLUME] スライダー (p.4)
- ③ ブリリアンス
音色の明るさをコントロールするスライダーです。
[BRILLIANCE] スライダー (p.8)
- ④ キートランスポーズ
移調を設定するスライダーです。
[KEY TRANSPOSE] スライダー (p.13)
- ⑤ サラウンド、エフェクト
音色にさまざまな効果を加えるスイッチです。
[SURROUND] [EFFECT] スイッチ (p.8)
- ⑥ タッチコントロール
鍵盤タッチによる音量変化の度合を設定するスイッチです。
[TOUCH CONTROL] スイッチ (p.12)

- ⑦ チューン
ピッチ(音程)を調整するスイッチです。
[TUNE] スイッチ (p.14)
- ⑧ テンペラメント
古典調律など音律を選択するスイッチです。
[TEMPERAMENT] スイッチ (p.15)
- ⑨ 音色セレクター
音色を選択するスイッチです。
[PIANO1] [PIANO2] [E.PIANO] [HARPSI]
[VIBES] [ORGAN] [STRINGS] [DRUM KIT]
[BASS] スイッチ (p.6)
- ⑩ MIDI(ミディ)
MIDIのさまざまな設定や他のスイッチと組み合わせて
いろいろな機能を設定するスイッチです。
[MIDI] (ミディ) スイッチ (p.50)
- ⑪ LED画面
テンボや音色番号などを表示します。
LED画面





⑫ セレクト/バリュー

LED画面の中の値などを設定するスイッチです。
[+/UP] [-/DOWN]スイッチ

⑬ メトロノーム

メトロノームをスタート/ストップするスイッチです。
[METRONOME]スイッチ (p.10)

⑭ テンポ、ビート、メトロボリューム

メトロノームの各値を設定するスイッチです。
[TEMPO][BEAT][METRO VOLUME]スイッチ (p.10～)

⑮ ソング、パート

レコーダー使用時やソングプレイ時にソング(曲)やパートの番号を選択するスイッチです。
[SONG][PART]スイッチ (p.17～)

⑯ レコーダー

演奏を録音/再生するときに使用するスイッチです。
[RESET][START/STOP][RECORD][REW]
[FF][REPEAT]スイッチ (p.17～)

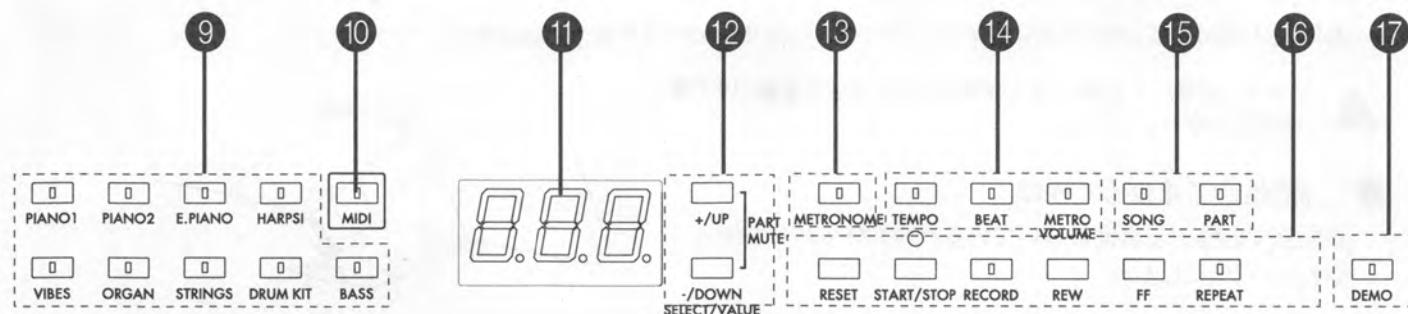
⑰ デモ

本体に内蔵されているデモ演奏を再生するスイッチです。
[DEMO]スイッチ (p.5)

⑱ パワーランプ
(p.4)

⑲ PHONES端子(本体下側にあります。)
ステレオヘッドホンを接続します。
[PHONES] (p.4)

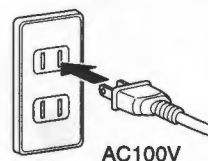
⑳ 譜面立て (p.4)



2. 演奏するための準備

1 電源コードを差し込みます

電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。
必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。

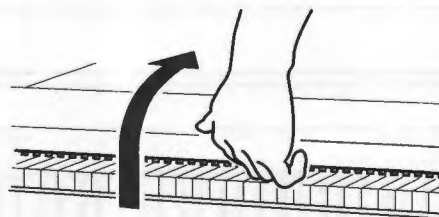


2 キーカバーを開けます

へりの中央部分を軽く持ち上げて支えながら、静かに奥の方へスライドさせます。

キーカバーを閉じるときは、へりの中央部分を軽く持ち、前方へスライドさせます。

! 開閉中は指や手を挟まないように十分注意してください。
無理な力を加えたり、乱暴に開閉すると故障の原因になることがあります。

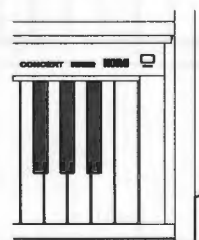


3 電源をオンにします

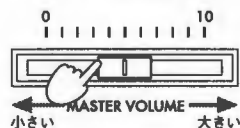
1. [POWER]スイッチを押して、電源をオンにします。
電源をオンにすると、正面左側にあるPOWERランプが点灯します。

! このときペダルの初期化も行っていますので、LED画面に数字が表示されるまではペダルをふまないでください。

2. 電源をオフにするときはもう一度[POWER]スイッチを押します。
電源をオフにすると、正面左側にあるPOWERランプが消灯します。



4 音量を調節します



[MASTER VOLUME]スライダーを中程まで上げておきます。スライダーを右に動かすと音量が大きくなり、左に動かすと音が小さくなります。“0”の位置では音が出ません。実際に弾きながら適度な音量に調節してください。

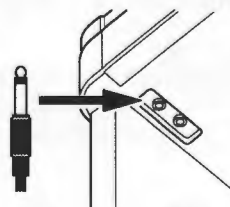
[MASTER VOLUME]スライダーは、本体のスピーカーと[PHONES]端子、リアパネルの[OUTPUT]端子から出力される音量をコントロールします。

■ ヘッドホンを使うときは

ヘッドホン差し込むと本体のスピーカーからは音が出なくなります。夜間などの周囲へ伝わる音量が気になるときはヘッドホンをお使いください。ヘッドホン端子は2つありますので、お二人で演奏を楽しむことができます。

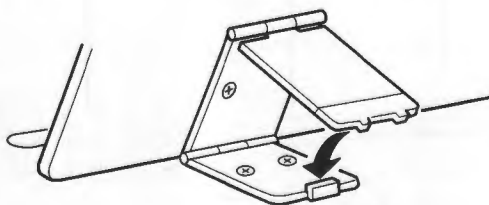
本体左下側にある[PHONES]端子に、ステレオヘッドホンのプラグを差し込みます。

! ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量のまま長い時間きかないでください。



■ 譜面立てを使うときは

譜面立てを起し、裏面についている2つのストッパーを使って倒れないようにします。



3. デモ演奏を聴いてみましょう

デモ演奏を本体に5曲内蔵しています。デモ演奏を聴いて本機の豊かな音色とその表現力を確認してください。

1. [DEMO]スイッチを押します。

[DEMO]スイッチのランプと[SONG]スイッチのランプが点灯して、LED画面にデモ曲の番号(d01)が表示されます。

2. 聴きたい曲番号を[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して選びます。

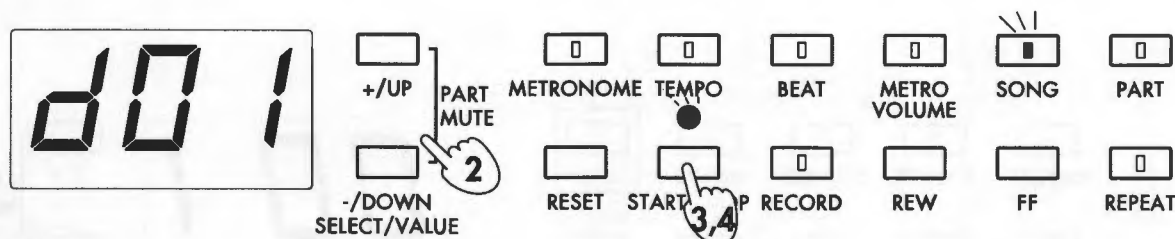
番号	曲名
d01	G.ガーシュイン/ラブソディー・イン・ブルー
d02	F.ショパン/ポロネーズ イ長調「軍隊」Op.40-1
d03	KORGオリジナル/Splendid View
d04	KORGオリジナル/Ragtime Paradise
d05	F.リスト/愛の夢 第3番



3. [START/STOP]スイッチを押すと、デモ演奏が始まります。

[START/STOP]スイッチ上のランプが曲のテンポに合わせて点滅します。

選んだデモ曲から順番に、全曲を繰り返し再生します。



4. 演奏を止めたいときは[START/STOP]スイッチを押します。

[START/STOP]スイッチ上のランプが消灯します。

5. デモ演奏を聴き終えたら、演奏されていないときに[DEMO]スイッチを押します。

[DEMO]スイッチのランプが消灯します。



弾いてみましょう

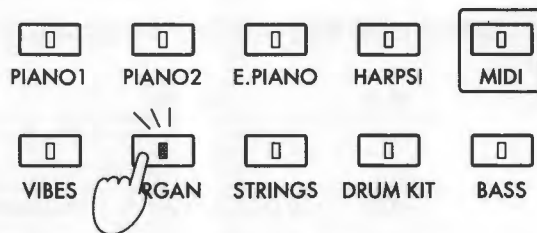
弾いてみましょう

1. 音色を選びます

本機には16音色が内蔵されています。

- [音色セレクター]を押して、弾きたい音色を選びます。

選んだ[音色セレクター]のランプが点灯し、その音色で演奏することができます。



音色グループから音色を選ぶには

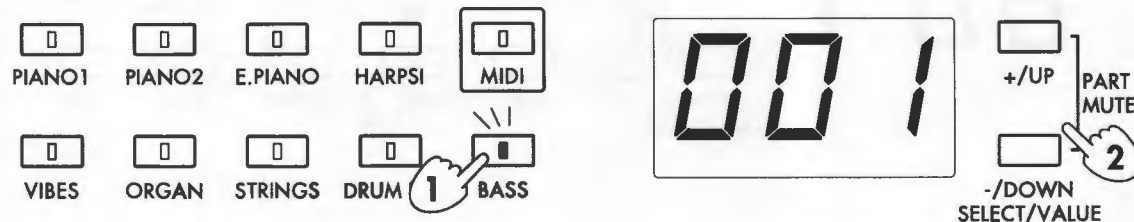
本機の[BASS]には8種類の音色が入っています。そのなかから1つの音色を選び、演奏することができます。

1. [BASS]を押します。

[BASS]スイッチのランプが点灯し、LED画面には現在選ばれている音色番号が表示されます。

2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、音色を選びます。

音色のリストは7ページをご覧ください。[+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに音色番号が1ずつ増減します。



音色	音の特徴
PIANO1 (ピアノ1)	広がり感のある豊かなアコースティックピアノの音
PIANO 2 (ピアノ2)	落ち着いた感じのアコースティックピアノの音
E.PIANO (エレクトリックピアノ)	軽やかで透明感のあるエレクトリックピアノの音
HARPSI (ハーブシコード)	クラシックな趣のある繊細なハーブシコードの音
VIBES (ビブラフォン)	まろやかなビブラフォンの音
ORGAN (オルガン)	荘厳なパイプオルガンの音
STRINGS (ストリングス)	バイオリンなどの弦楽器によるアンサンブルの音
DRUM KIT (ドラムキット)	各鍵盤に割り振られた打楽器等のサウンドのグループ
BASS (ベース)	アコースティックベースやシンセベースなどの8種類のベース音

🔊 [PIANO1]と[BASS]の一部の音色(7ページ参照)では最大同時発音数は16音になります。それ以外の音色では32音です。

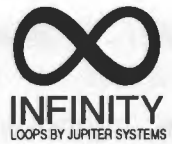
🔊 電源オン時の音色は、電源オフ直前に設定していたソング1のパート1の音色が選ばれます。

[BASS] 音色リスト

01 Jazz Bass	05 SlapBass 1
02 Deep Bass	06 SlapBass 2
03 Pick Bass	*07 SynthBass1
04 Fretless	08 SynthBass2

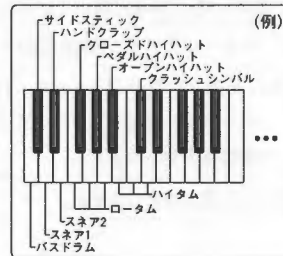
* のついた音色を選ぶと最大発音数は16音になります。

[PIANO1], [PIANO2] sounds processed by Infinity™



DRUM KIT (ドラムキット) とは?

鍵盤ごとにスネアやハイハットなどのドラムサウンドを右図のように割り当てたものです。(50ページ参照)

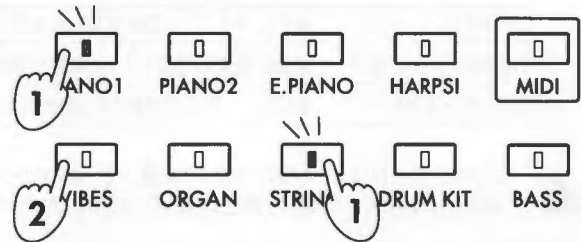


2つの[音色セクター]を同時に鳴らすには

1つの鍵盤を打鍵したときに、2つの[音色セクター]の音色(たとえば[PIANO1]と[STRINGS])を同時に鳴らすことができます。これをレイヤー機能といいます。

1. 組み合わせたい2つの[音色セクター]の一方を押しながら、もう一方を押します。

選んだ2つの[音色セクター]スイッチのランプが点灯し、打鍵時には両方の音色が同時になります。



[DRUM KIT]は選べません。

はじめに押した[音色セクター]の[SURROUND]と[EFFECT]の効果(8ページ参照)がかかります。

レイヤーにすると、同時に2つの音色を発音するため、最大同時発音数が少なくなります。

本体レコーダーを使う際に、レイヤーを選ぶといくつかの制約を受けます。19ページをご覧ください。

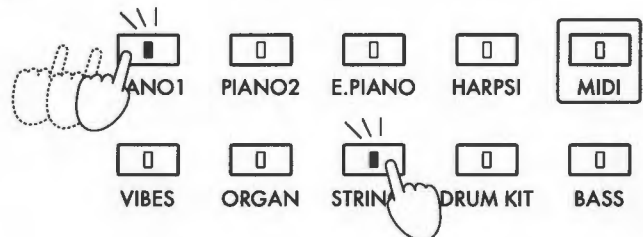
2. [音色セクター]を一つだけ押すと、レイヤーが解除されます。

二つの音色の音量バランスを変えるには

● 音量を小さくしたいほうの[音色セクター]を押しながら、音量を大きくしたい[音色セクター]を繰り返し押します。

押すたびに繰り返し押している[音色セクター]の音色の音量が大きくなります。

● ボリュームバランスは、レイヤーを解除したあとでも記憶されています。



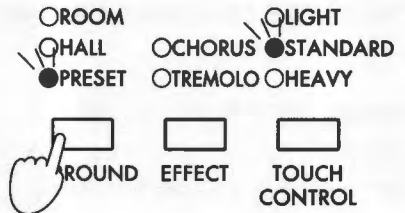
2. 音色に残響や広がりを与えます

音に残響を与えます

[音色セクター]で選んだ音色に残響を与え、心地よいサウンドにします。(サラウンド効果)

- [SURROUND]スイッチを押して、加えたい効果を選びます。
押すたびにスイッチ左上のランプが次々に点灯して効果が加わります。

サラウンド	効果の特徴
ROOM (ルーム)	小さな部屋の中で演奏を聴いているときの響きが得られます。
HALL (ホール)	コンサートホールの客席で演奏を聴いているときの響きが得られます。
PRESET (プリセット)	各音色に最適な効果が得られます。[PIANO1]または[PIANO2]を選び、ダンパーペダルを踏むとアコースティックピアノの響きをシミュレートした共鳴効果が得られます。
OFF (オフ:ランプ消灯)	サラウンド効果はかかりません。

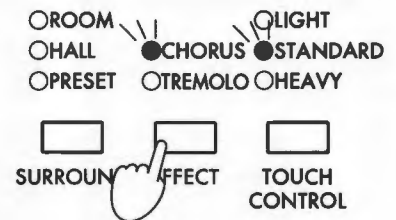


音に広がりを与えます

[音色セクター]で選んだ音色にうねりを与え、広がりのある豊かな響きにします。(モジュレーション効果)

- [EFFECT]スイッチを押して、加えたい効果を選びます。
押すたびにスイッチ左上のランプが次々に点灯して効果が加わります。

エフェクト	効果の特徴
CHORUS (コーラス)	音が広がるような効果が得られます。
TREMOLO (トレモロ)	左右に音が行き交うような効果が得られます。
OFF (ランプ消灯)	モジュレーション効果はかかりません。



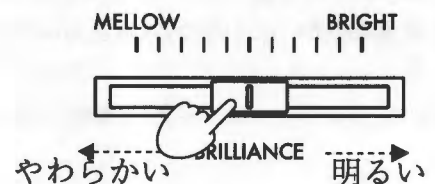
- ▲ [SURROUND]で“PRESET”を選ぶと[EFFECT]スイッチのランプが消灯し、[SURROUND]と同様に、音色に最適な効果がかけられます。

[SURROUND]と[EFFECT]の効果は[音色セクター]ごとに設定することができます。以後その[音色セクター]を選ぶたびに、自動的に同じ効果が設定されます。

☞ 電源ON時の効果は電源オフ直前のソング1のパート1に設定していた効果が選ばれます。

音の明るさを調節します

[BRILLIANCE]スライダーを右(“BRIGHT”)側に動かすと音が明るい感じの音になり、左(“MELLOW”)側に動かすとやわらかい感じの音になります。



3. ペダルを使った効果

本機には、ダンパー、ソステヌート、ソフトの3種類のペダルがあります。これらのペダルを使って演奏に効果を出します。

ソフトペダル

ペダルを踏んでいる間は音がやわらかくおとなしい感じになります。ペダルを踏み込む深さで音のやわらかさを変化させることができます(ハーフペダル効果)。

ソステヌートペダル

ペダルを踏んだときに押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。ペダルを踏んでいる間に新たに弾いた音には効果はかかりません。

ダンパーペダル

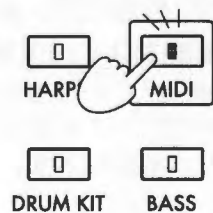
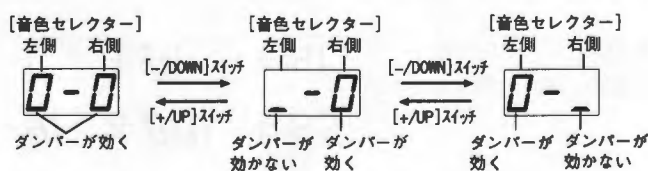
ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます(ハーフペダル効果)。
[PIANO1]と[PIANO2]の音色のときに[SURROUND]を“PRESET”にすると、ペダルを踏み込んだときにアコースティックピアノの弦の響きをシミュレートした共鳴効果が得られます。

レイヤー時のペダルの設定

レイヤー時の二つの音色のうち、どちらの音色にダンパーペダルの効果を加えるかを設定します。たとえばピアノの音色にダンパーペダルの効果をかけ、ストリングスの音色にはダンパーペダルの効果をかけないで演奏することができます。

1. [MIDI]スイッチを押しながら、ダンパーペダルを踏みます。

[MIDI]スイッチのランプが点灯し、LED画面に次のように表示されます。

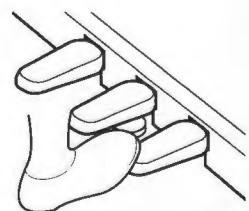


LED画面の左が[音色セレクトター]の左側の設定で、右が[音色セレクトター]の右側の設定です。“0”でダンパーが効き、“1”はダンパーが効きません。

[音色セレクトター]音色の下段の音色は[VIBES]、[ORGAN]、[STRINGS]、[BASS]は[HARPSI]の右側の音色になります。

2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、設定を選びます。

☞ 電源を再度オンすると2つの[音色セレクトター]にダンパー効果がかけられます。




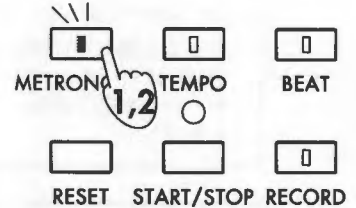
4. メトロノームに合わせて演奏します

正確なテンポに合わせて演奏するときなどにメトロノームを使います。
このメトロノームは次章で説明するレコーダーの拍子やテンポの基準になります。

メトロノームを鳴らします

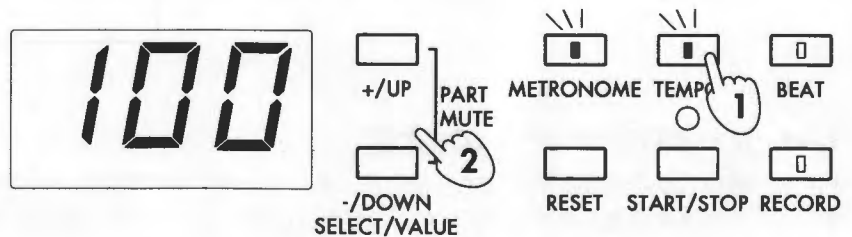
- [METRONOME]スイッチを押すと、メトロノームがスタートします。
[METRONOME]スイッチのランプが点灯します。
- もう一度[METRONOME]スイッチを押すと、メトロノームがストップします。
[METRONOME]スイッチのランプが消灯します。

 メトロノームを鳴らすと、メトロノーム用に1音使われるため、最大同時発音数が1音分少なくなります。



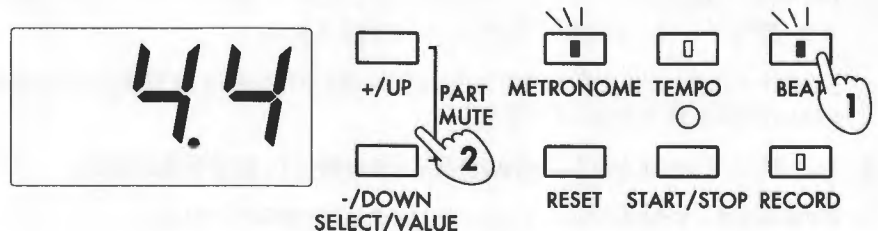
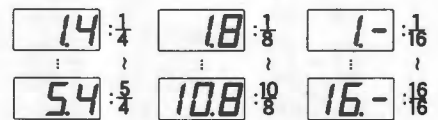
テンポを調節します

- [TEMPO]スイッチを押します。
[TEMPO]スイッチのランプが点灯して、LED画面に現在のメトロノームのテンポが表示されます。設定できる範囲は♩=30~250です。
- [+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、テンポを調節します。
[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに数値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。また、[TEMPO]スイッチを押しながら[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押すと、数値が10ずつ増減します。




拍子を設定します

- [BEAT]スイッチを押します。
[BEAT]スイッチのランプが点灯して、LED画面に現在のメトロノームの拍子が表示されます。設定できる拍子は、1/4~5/4、1/8~10/8、1/16~16/16です。右のように表示されます。



- [+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、拍子を設定します。
[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。

 テンポ、拍子は各ソングごとに設定されます。

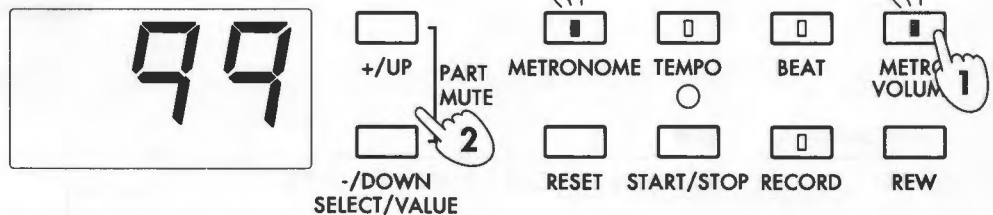
音量を調節します

1. [METRO VOLUME]スイッチを押します。

[METRO VOLUME]スイッチのランプが点灯して、LED画面に現在のメトロノームの音量が表示されます。設定できる音量は0(最小)~127(最大)です。

2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、音量を調節します。

[+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに数値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。また、[METRO VOLUME]スイッチを押しながら[+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押すと、数値が10ずつ増減します。



拍子のアクセント音を選択します

拍子のアクセント音(強拍)をベルの音か通常のメトロノーム音にするか、またはアクセント音の鳴らない(弱拍のみ)ようにします。

● [MIDI]スイッチを押しながら[METRONOME]スイッチを押すと、押すたびに設定が次のように切り替わります。

[MIDI]スイッチを押している間、[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[METRONOME]スイッチのランプが設定によって点灯、消灯または点滅します。

アクセント音	ランプ
ベルの音	点灯
通常のメトロノーム音	消灯
アクセント音無し	点滅

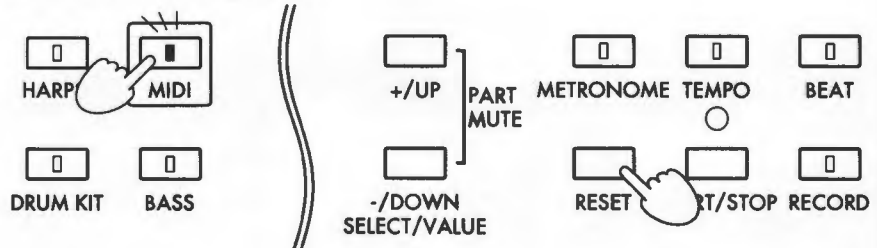
▲ アクセント音にベルを選ぶとパート16がミュートされます。

● 電源を立ち上げ直すと、本機は拍子、音量、アクセント音については電源オフ直前の設定になります。テンポはソング1を録音や再生をした時の値になります。

音色などが思うとおりに設定できないときは

本機のさまざまな機能を使い進めていくうちに、音色が思うとおりに設定できなくなることがあるかもしれません。そのようなときは次の操作(初期化)をしてから音色などを選び直してください。この操作をしたときに設定し直される内容については52ページをご覧ください。

● [MIDI]スイッチを押しながら、[RESET]スイッチを押します。

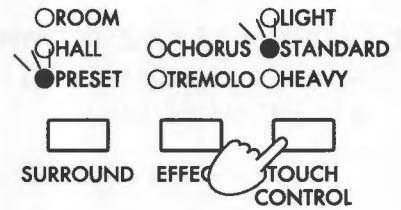


▲ 上の操作をすると、ペダルの設定も初期化されますので、操作中はペダルを踏まないでください。

5. 鍵盤のタッチ感を変えます

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。これをタッチコントロール機能といいます。

● [TOUCH CONTROL] スイッチを押すたびに、設定が順番に切り替わります。



弾いてみましょう

タッチコントロール	説明	
LIGHT	弱く弾いてもフォルテシモ (<i>ff</i>) が出せるタッチです。	
STANDARD	通常のピアノタッチです。	
HEAVY	強く弾かないとフォルテシモが出せないタッチです。ピアノシモ (<i>pp</i>) からフォルテシモまでダイナミックに表現できます。	

☞ 電源を入れた直後は、自動的に“STANDARD”に設定されます。

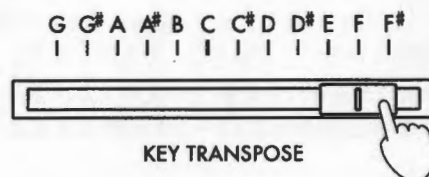
この機能では鍵盤自体のタッチの重さは変わりません。

6. 弾きやすく、歌いやすくします(移調)

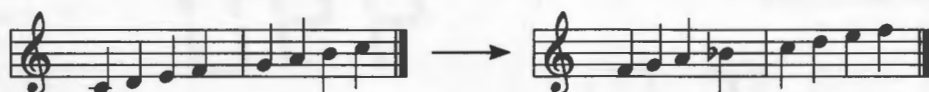
黒鍵を多く押さえるような弾きにくい曲や、キー(調)が低すぎたり高すぎたりして他の楽器や歌に演奏が合わせられないときなどに、キーを変える(移調する)ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで他の楽器や歌に演奏を合わせることができるようになります。これをキートランスポーズ機能といいます。

● [KEY TRANSPOSE] スライダーを移調したいキーに移動します。

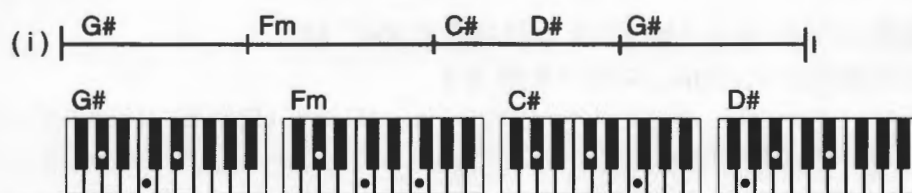
“C(ド)”の鍵盤に、[KEY TRANSPOSE] スライダーで設定したキーが割り当てられます。設定の範囲は、半音単位で11半音{G(-5)~F#(+6)}です。



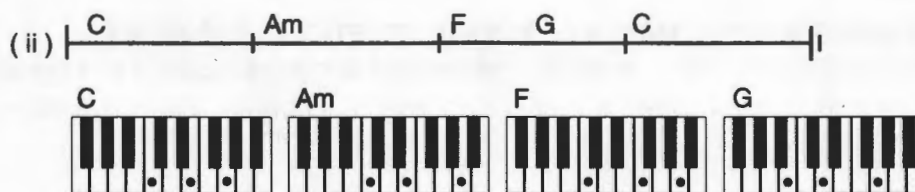
例1) [KEY TRANSPOSE] スライダーを“F”に設定した場合、“C(ド)”の鍵盤を押すと“F(ファ)”の音で鳴ります。



例2) 黒鍵を多く使うコードをトランスポーズ機能を使って、これをもっと弾きやすい調に直します。



曲の全体を半音4つ分だけ高くすれば、コードは次のようになります。



こちらのほうがずっと弾きやすいですが、このまま弾くと当然もとの曲よりも高い音になってしまいます。本機から出る音の高さを逆に半音4つ分だけ低く、つまり[KEY TRANSPOSE] スライダーを“G#”に設定します。

例3) 曲の調子を半音上げて演奏するには、[KEY TRANSPOSE] スライダーを“C#”に設定します。半音下げる場合は“B”に設定します。

7. 音程のずれを微調整します

ピッチ(音程)の微調整を行ないます。他の楽器と合奏するときなどに、楽器間の微妙な音程のずれを調整します。427~453Hz(ヘルツ)の範囲で設定できます。またもう少し細かく調整するために±50cent(セント)の範囲で設定もできます。

1. [TUNE]スイッチを押します。

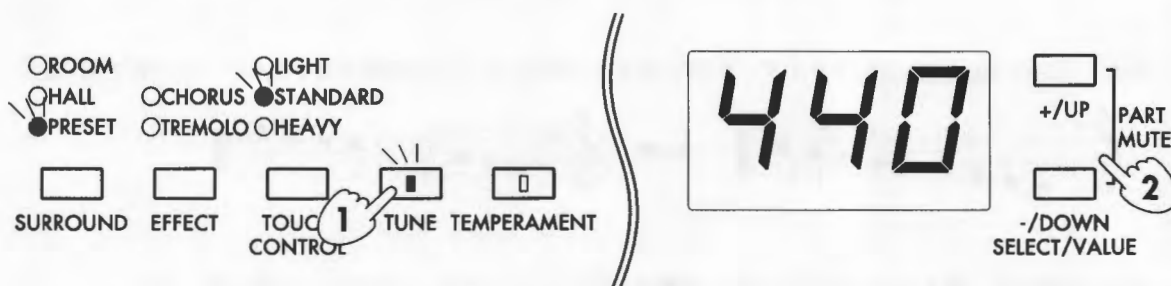
[TUNE]スイッチのランプが点灯し、LED画面には現在のチューニング値が表示されます。

2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、ピッチを調整します。

[+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに数値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。

Hz(ヘルツ):高さを示す絶対値の単位です。各楽器のピッチを合わせるために、ピアノの中央のA4(ラ)=440Hzが基準ピッチとして用いられています。この基準ピッチは地域や時代によって多少異なり、近年ではやや高め(のピッチ(A4=441~444Hz)で調整されることが多くなってきています。

cent(セント):音の高さの比率を示す最小の単位です。半音が100セント、1オクターブが1200セントです。1セントは非常に小さな単位ですので±3セント程度の差はあまり問題になりません。



“ヘルツ”単位と“セント”単位を切り替えるには

1. [MIDI]スイッチを押しながら、[TUNE]スイッチを押します。

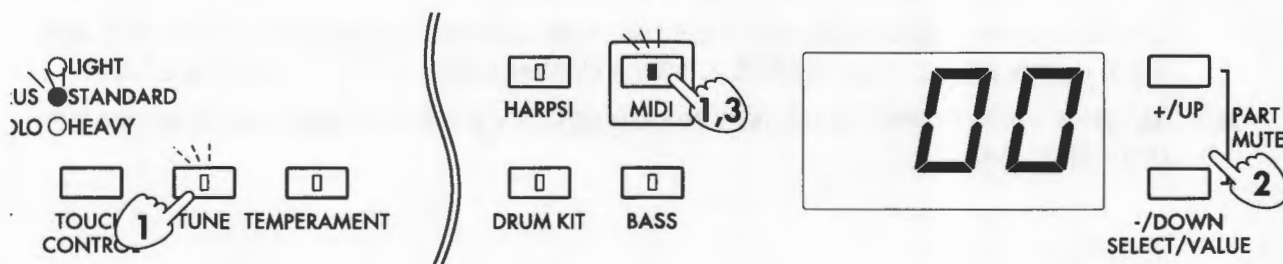
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[TUNE]スイッチのランプが点滅します。LED画面には現在のチューニング値(“セント”または“ヘルツ”)が表示されます。

2. [-/DOWN]スイッチを押すと“セント”単位に、[+UP]スイッチを押すと“ヘルツ”単位に切り替わります。

▲ “セント”単位から“ヘルツ”単位の表示に切り替えると、現在の“セント”での設定に最も近い“ヘルツ”表示になり、チューニングの値もその高さになります。

3. チューニングする単位を選んだら、[MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押します。

[MIDI]スイッチと[TUNE]スイッチのランプが消灯し、“操作1”を行う前の設定画面に戻ります。そのため“操作1”を行う前に[TUNE]スイッチを押していれば[TUNE]スイッチのランプが点灯し、LED画面には切り替えた現在の単位が表示されます。



4. [TUNE]スイッチを押した後、[+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、チューニング値を調整します(上記操作参照)。

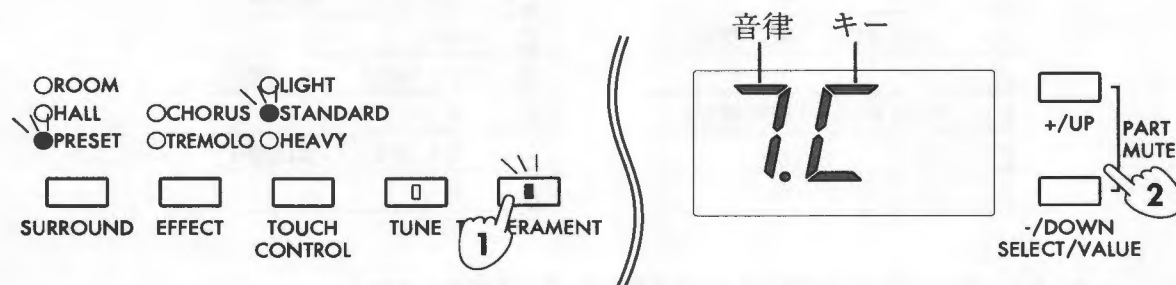
● チューニング値は、電源をオフにした後にも記憶されています。

8. 音律を選びます

クラシック音楽には、古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。これらの曲の持つ本来の響きを再現するためにキルンベルガーやヴェルクマイスターなどの古典音律が用意されています。またその他にもアラビアやインドネシア特有の音律が用意されています。

1. [TEMPERAMENT]スイッチを押します。

[TEMPERAMENT]スイッチのランプが点灯し、現在選ばれている音律の番号がLED画面に表示されます。キー(調)の設定が必要な音律には音律番号の右側にキーが表示されます。



LED	音律名	キー	説明
0.	平均律		鍵盤楽器に最も幅広く用いられている通常の音律です。これは半音階が均等に配列されているため、どのキーでも均一のスケールで演奏することができます。
1.	平均律(ランダム)		平均律のピッチが若干不規則にずれます。音程が自然と不規則になりがちなアコースティック楽器を再現するのに向いています。
2.	純正律長音階	○	"キー"で設定した主調和音のメジャーコードが完全に調和する音律です。
3.	純正律短音階	○	"キー"で設定した主調和音のマイナーコードが完全に調和する音律です。
4.	アラビック(1/4)	○	アラビア音楽の1/4トーン音律です。rast do/bayati reにはキーをC(ド)に、rast re/bayati miにはD(レ)、rast fa/bayati solにはF(ファ)、rast sol/bayati laにはG(ソ)、rast si b/bayati doにはA#(ラ#)を設定します。
5.	ピタゴラス	○	古代ギリシャの音律で、メロディー演奏に効果的です。
6.	ヴェルクマイスター	○	バロック時代の後期に用いられた平均律的な音律です。
7.	キルンベルガー	○	主にハープシコードの調律に用いられている18世紀に考案された音律です。
8.	スレンドロ	○	1オクターブを5音で構成するインドネシアのガムラン音律です。キーがCのとき、C、D、F、G、A(ド、レ、ファ、ソ、ラ)の各鍵を使用します。
9.	ペロッグ	○	1オクターブを7音で構成するインドネシアのガムラン音律です。キーがCのとき、C、D、E、F、G、A、B(ド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、シ)の各鍵を使用します。

2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、音律を選びます。

[+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。

キー(調)を設定するには

前ページ表のキーの項目に“○”がついている音律では、演奏する曲の調に合った“キー”を設定します。

1. [MIDI]スイッチを押しながら、[TEMPERAMENT]スイッチを押します。

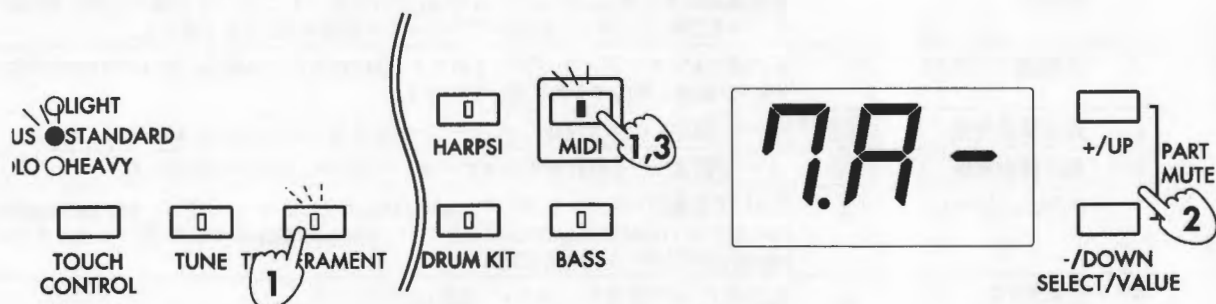
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[TEMPERAMENT]スイッチのランプが点滅します。LED画面には現在選ばれている音律の番号とキーが表示されます。

LED	キー	調
\underline{C}	C	ハ
$\underline{d-}$	D \flat (#C)	変ニ(嬰ハ)
\underline{d}	D	ニ
$\underline{E-}$	E \flat (#D)	変ホ(嬰ニ)
\underline{E}	E	ホ
\underline{F}	F	ヘ

LED	キー	調
$\underline{G-}$	G \flat (#F)	変ト(嬰ヘ)
\underline{G}	G	ト
$\underline{A-}$	A \flat (#G)	変イ(嬰ト)
\underline{A}	A	イ
$\underline{b-}$	B \flat (#A)	変ロ(嬰イ)
\underline{b}	B	ロ

2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、キーを設定します。

[+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。



3. 設定が終わったら、[MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押します。

[MIDI]スイッチのランプが消灯し、“操作1”を行う前の設定画面に戻ります。


ストレッチチューニングについて

[PIANO1]、[PIANO2]では、より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高いピッチに調整されています。

演奏を録音/再生してみましょう

1. 演奏を録音します

本機のリコーダーは、テープレコーダーを操作する手軽さで鍵盤の演奏を録音、再生することができます。10のソング(曲)を録音でき、1つのソングには16のパートがあります。これらのパートそれぞれに演奏を録音でき、それを同時に再生することができます。

 工場出荷時にはメトロノームにベル音が設定されているため、パート16は使用できません。ベル音の設定を解除するとパート16が表示され、パート16の録音/再生が行えます(11ページ参照)。

1. [SONG]スイッチを押します。

[SONG]スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のソング番号(01~10)が表示されます。

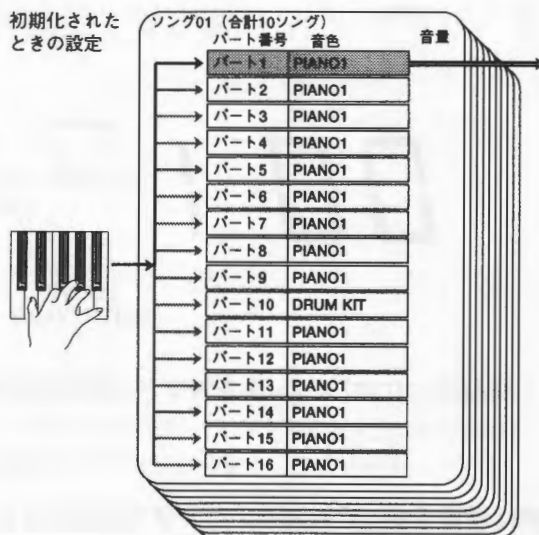
2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、録音するソングを選びます。

[+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびにソング番号が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。

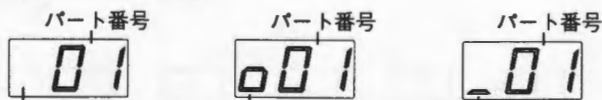
3. [PART]スイッチを押します。

[PART]スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のパート番号(01~16)が表示されます。また、パート番号の左側に選ばれているパートの状態が表示されます。

初期化されたときの設定



パート1を選んだときの例



録音されていないパート 録音されたパート ミュートされたパート(23ページ参照)

4. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、録音するパートを選びます。

通常は録音されていないパートを選びます。録音し直すときは録音された同じパートを選びます。押し続けると連続的に増減します。

5. [RESET]スイッチを押します。

[RESET]スイッチを押すと曲の最初に移動します。

6. [音色セレクター]で音色を選びます。

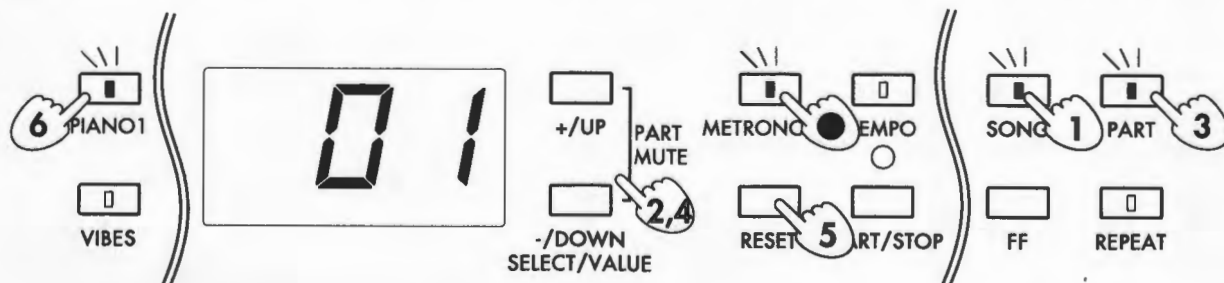
再生時には、ここで選んだ音色が選ばれます。レイヤーにして録音する場合は19ページをご覧ください。

録音が始まってから[音色セレクター]を押して音色を切り替えることができます。ただし、レイヤーは選べません。再生時には、録音中に[音色セレクター]を押した位置で音色が自動的に切り替わります。

● メトロノームに合わせて演奏を録音する場合は、[METRONOME]スイッチを押して、メトロノームを鳴らしてください。

必要に応じて拍子、テンポやボリュームを調節してください(10ページ参照)。

● 録音する演奏のタイミングを補正(クオンタイズ)することができます。詳しくは24ページをご覧ください。



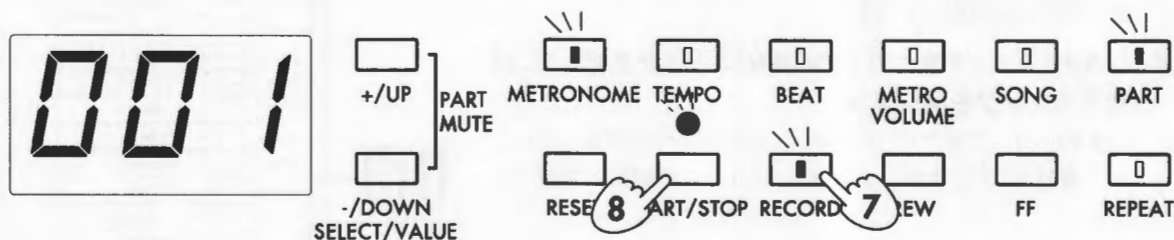
7. [RECORD]スイッチを押します。

[RECORD]スイッチのランプが点灯します。この状態ではソング番号、パート番号を変更することはできません。変更する場合は、もう一度[RECORD]スイッチを押して録音待機の状態を解除してください。

8. 鍵盤を押すか、[START/STOP]スイッチを押すと、録音が始まります。

鍵盤を押すと、同時に録音が始まります。[START/STOP]スイッチを押すと、2小節のカウント(LED画面に“-02”→“-01”表示)後、録音が始まります。

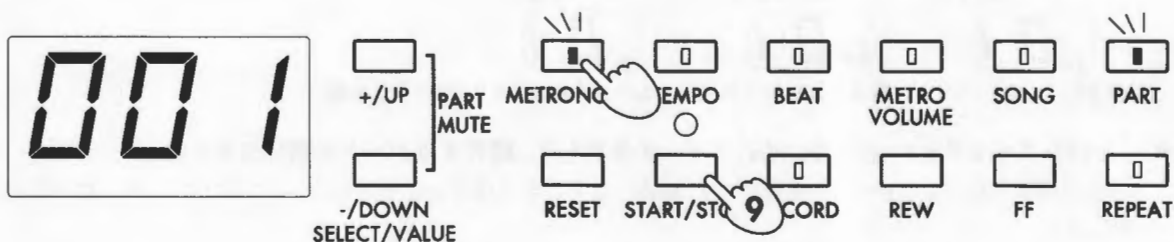
録音している間は、[START/STOP]スイッチ上のランプがテンポに合わせて拍子の頭では赤色に、それ以外では緑色に点滅します。



9. [START/STOP]スイッチを押すと、録音が終わります。

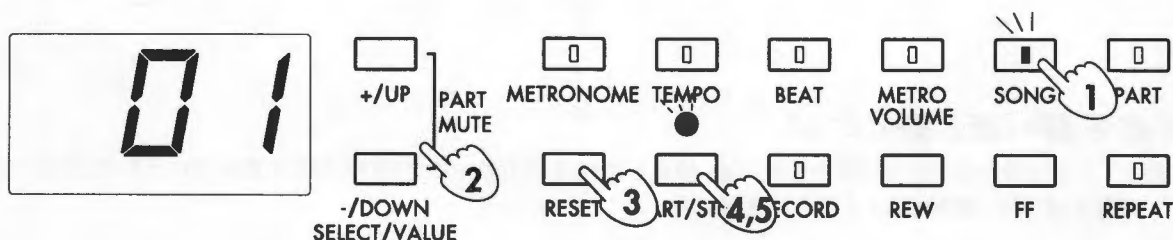
[START/STOP]スイッチ上のランプと[RECORD]スイッチのランプが消灯し、自動的に録音を開始した小節に移動します。メトロノームを鳴らしている場合は[METRONOME]スイッチを押してメトロノームを止めてください。

本機は電源を切っても演奏データは保存されています。



2. 演奏を再生します

1. [SONG]スイッチを押します。
[SONG]スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のソング番号(01～10)が表示されます。
2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、再生するソングを選びます。
3. [RESET]スイッチを押します。
[RESET]スイッチを押すと、小節の最初に戻ります。
4. [START/STOP]スイッチを押すと、演奏が始まります。
再生されている間は[START/STOP]スイッチ上のランプがテンポに合わせて点滅します。



5. [START/STOP]スイッチを押すと、演奏が停止します。
[START/STOP]スイッチ上のランプが消灯します。また、ソングのデータがすべて再生し終わっても同様に演奏が停止して[START/STOP]スイッチ上のランプが消灯します。

演奏の速さ(テンポ)を変えるには

[TEMPO]スイッチを押した後、[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押してLED画面に表示されるテンポを変えます(10ページ参照)。曲のテンポを変えてもピッチ(音の高さ)は変化しません。

音色を変えるには

録音したときの音色と違う音色で演奏を再生することができます。そのパートで再生したい音色を[音色セクター]を押して選びます。ただし、録音中に[音色セクター]を押して音色を切り替えた場合は、その位置で自動的に録音中に選んだ音色に切り替わります。

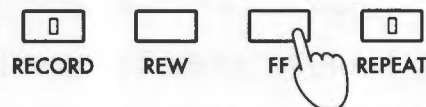


レイヤーを選んだときの注意

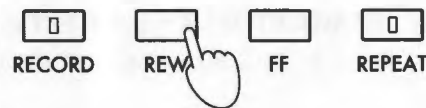
- ・レイヤーにすると、次の番号のパート(パート1をレイヤーにしたときはパート2)の演奏データは再生されなくなり、そのパートを選ぶことができなくなります。レイヤーを解除すると再生およびパートを選べるようになります。
- ・パート16(メトロノームにベル音を選んでいる場合はパート15)を選んでいるときにはレイヤーにできません。
- ・レイヤーにした2つのパートは、同じMIDIチャンネルになります。そのためMIDIプログラムチェンジを受信すると両方のパートが同じ音色になります。

演奏する小節を移動するには

[FF]スイッチを押すとLED画面に現在の小節が表示されます。小節表示後、[FF]スイッチを押すたびに、1小節単位で次の小節に進みます。押し続けると連続して小節が進みます。再生中に押すと移動中は音が出ません。



[REW]スイッチを押すとLED画面に現在の小節が表示されます。小節表示後、[REW]スイッチを押すたびに、1小節単位で前の小節に戻ります。押し続けると連続して小節に戻ります。再生中に押すと移動中は音が出ません。

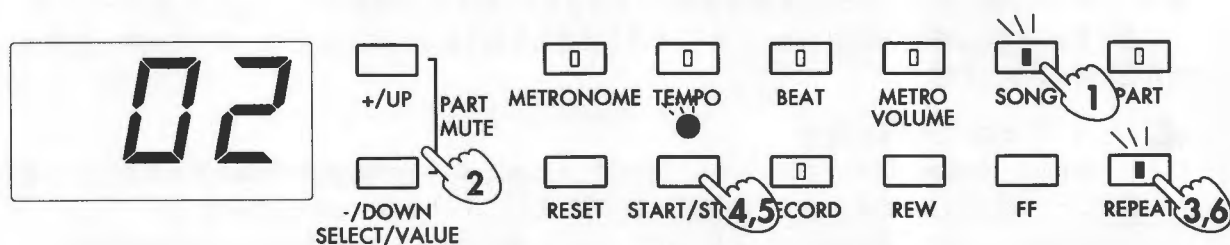


演奏を繰り返し聴くには


録音した曲全体や曲のある区間内を繰り返し再生します。そのため一曲を続けて何回も聴きたいときや、演奏のむずかしい部分を繰り返し練習するときなどに便利です。

1曲全体のリピート

1. [SONG]スイッチを押します。
[SONG]スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のソング番号が表示されます。
2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、リピート再生するソング番号を選びます。
3. [REPEAT]スイッチを押します。
[REPEAT]スイッチのランプが点灯します。
4. [START/STOP]スイッチを押すと、1曲全体を繰り返し再生します。
[START/STOP]スイッチ上のランプがテンポに合わせて点滅します。

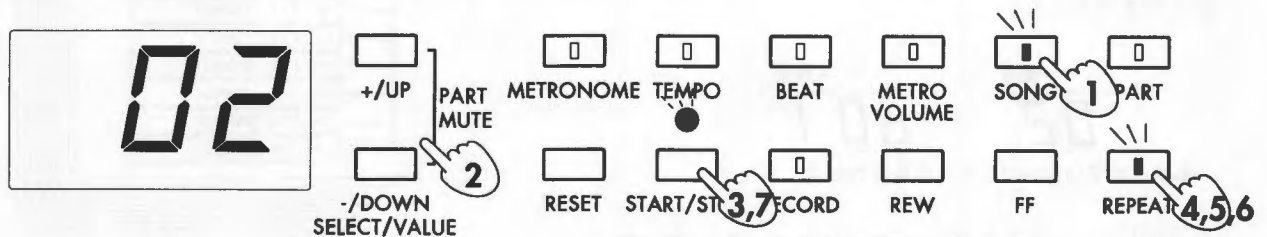


5. [START/STOP]スイッチを押すと、演奏が停止します。
[START/STOP]スイッチ上のランプが消灯します。
6. リピート演奏を解除するには、演奏が停止しているときに[REPEAT]スイッチを押します。
[REPEAT]スイッチのランプが消灯します。

 再生中には[REPEAT]スイッチをオフにすることができません。

A-B区間のリピート

1. [SONG]スイッチを押します。
[SONG]スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のソング番号が表示されます。
2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、リピート再生するソング番号を選びます。
3. [START/STOP]スイッチを押して、演奏を再生します。
[START/STOP]スイッチ上のランプがテンポに合わせて点滅します。
4. リピートを開始したいところで、[REPEAT]スイッチを押します。
[REPEAT]スイッチのランプが点滅します。“開始小節”が設定されました。
5. さらに再生を続けて、リピートを終了したいところで[REPEAT]スイッチを押します。
[REPEAT]スイッチのランプが点灯します。“終了小節”が設定され、区間内を繰り返し再生し始めます。



6. リピート区間の設定を解除するには、もう一度[REPEAT]スイッチを押します。
再生中に[REPEAT]スイッチを繰り返し押すと“開始小節”→“終了小節”→“設定解除”→“開始小節”というように順に設定されていきます。
7. [START/STOP]スイッチを押すと、演奏が停止します。
[START/STOP]スイッチ上のランプが消灯します。

▲ リピート区間の“開始点”と“終了点”はメトロノームで設定している小節単位で行われます。そのため、聴きながら設定した位置より実際の開始点は前に、終了点は後ろになる場合があります。
A-B区間のリピート中は、[REW]スイッチ、[FF]スイッチで小節を移動することができません。

3. アンサンブルを楽しむには

すでに録音したパートを再生しながら、新たに別のパートに演奏を録音することができます。右手と左手の演奏を片手ずつ別々のパートに録音したり、ベースやドラムなどの演奏を各パートに録音して、多彩なアンサンブルを楽しむことができます。

1. [SONG]スイッチを押します。

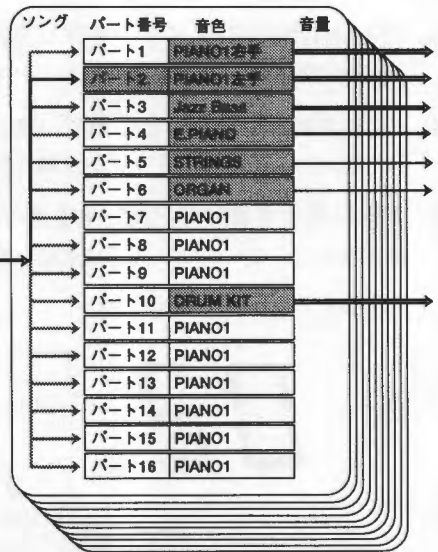
[SONG]スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のソング番号(01~10)が表示されます。

2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、アンサンブルを録音するソングを選びます。

3. [PART]スイッチを押します。

[PART]スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のパート番号(01~16)とパート番号の左側に選ばれているパートの状態が表示されます。

アンサンブル例



4. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、録音されていないパートを選びます。

5. 「1. 演奏を録音します」(17ページ)の操作「5」からを参照して、すでに録音を済ませた演奏を聴きながら追加するパートを録音してください。

現在選んでいるパートの[SURROUND]、[EFFECT]の効果がすべてのパートにかかります。

パートごとの音量を調節するには

複数のパートのそれぞれの音量を調節して、演奏のバランスを整えます。

1. [PART]スイッチを押します。

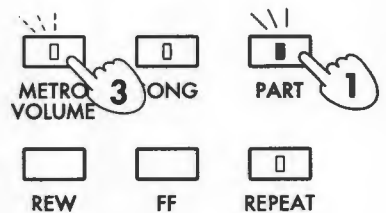
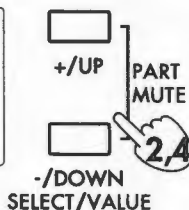
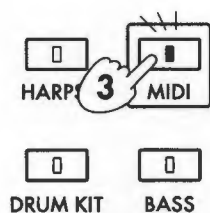
[PART]スイッチのランプが点灯します。

2. [-/DOWN]スイッチまたは[+UP]スイッチを押して、音量を調節するパートを選びます。

3. [MIDI]スイッチを押しながら、[METRO VOLUME]スイッチを押します。

[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[METRO VOLUME]スイッチのランプが点滅します。LED画面には現在のパートの音量が0(最小)~127(最大)で表示されます。

4. [-/DOWN]スイッチまたは[+UP]スイッチを押して、音量を調節します。



演奏を録音・再生
してみましよう

マイナスワン演奏をするには

すでに録音をしてあるパートの演奏をミュート(音を一時的に消す)して、演奏やボーカルを加えることができます。これをマイナスワン演奏といいます。この操作は一時的に音を消すため「パートを消去します(26ページ参照)」のように永久的にデータを失うものではありません。また前ページの「パートごとの音量を調節するには」の操作で音量を“0”にすることができますが、この場合は鍵盤を弾いたときの音量も“0”になって音が鳴らなくなります。

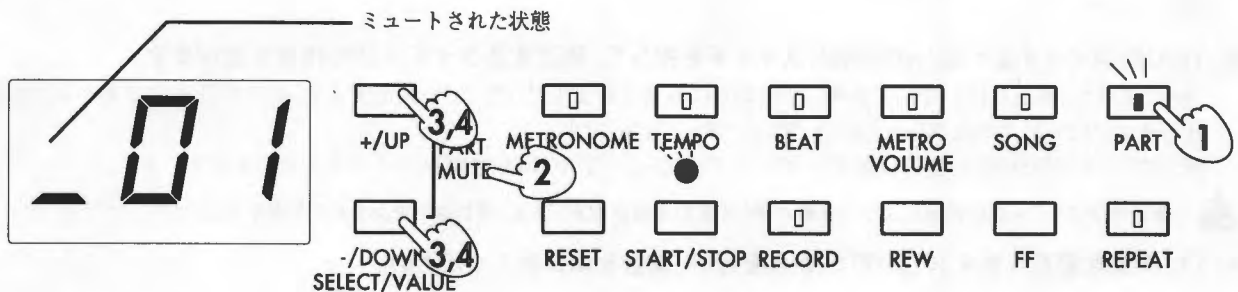
1. [PART]スイッチを押します。

[PART]スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のパート番号(01~16)とパート番号の左側に選ばれているパートの状態(17ページ参照)が表示されます。

2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、ミュートしたいパートを選びます。

3. [-/DOWN]スイッチと[+UP]スイッチを同時に押して、パートをミュートします。

LED画面の表示が図のように変わり、演奏データを再生するとこのパートは再生されません。



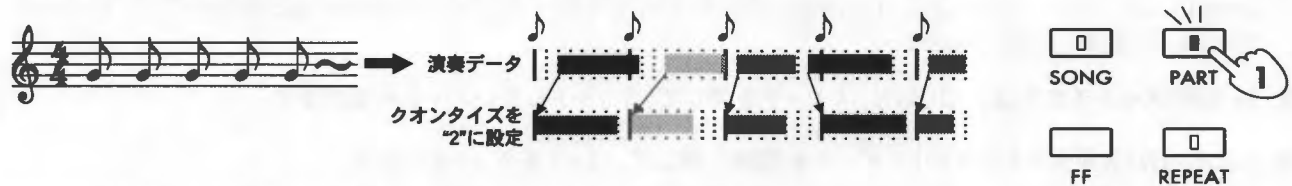
4. もう一度、[-/DOWN]スイッチと[+UP]スイッチを同時に押すと、ミュートが解除されます。

LED画面の表示と音量がミュート前の状態に戻ります。

4. 録音した演奏データのタイミングを整えるには

演奏するタイミングを自動的に補正させながら録音することができます。これを(リアルタイム)クオンタイズ機能といいます。たとえば、メトロノームに合わせて演奏を譜面のように録音したとします。タイミングがずれてしまった場合に、この機能を使うと自動的に正確なタイミングに補正してくれます。音符は補正するタイミングの精度に対して近いほうへずれ、補正されます。下の例ではすべて8分音符ですのでクオンタイズを次の操作手順に沿って“2”=♪に設定します。

1. 「1. 演奏を録音します」(17ページ)の操作“5”までを行います。



2. [MIDI]スイッチを押しながら、[BASS]スイッチを押します。

[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[BASS]スイッチのランプが点滅します。LED画面にクオンタイズの精度が表示されます。

3. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、補正するタイミングの精度を選びます。

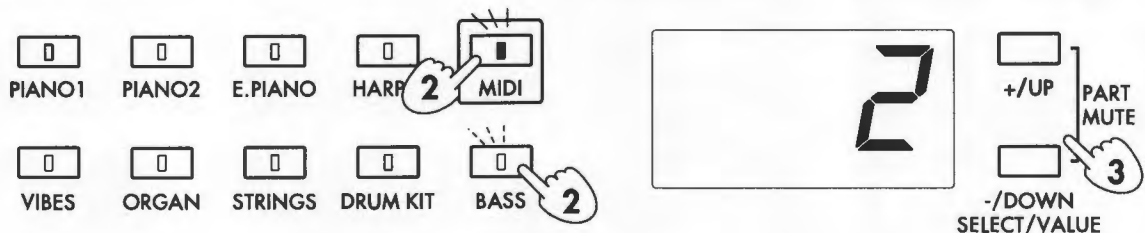
“96”にすると、補正を行わないで演奏したとおりに録音されます。“12”~“1”に設定すると、その音符単位でタイミングを補正します。“12”=♪、“8”=♪、“6”=♪、“4”=♪、“3”=♪、“2”=♪、“1”=♪です。

例：“12”では32分音符の3連符単位でタイミングを補正し、“1”では4分音符単位でタイミングを補正します。

- 補正するタイミングの精度によって演奏が著しく変わる場合があります。適切なクオンタイズを選んでください。

4. 「1. 演奏を録音します」の操作“5”からを行い、録音をはじめてください。

- クオンタイズのタイミングはメトロノームの拍子とテンポに従います。[METRONOME]スイッチを押して、メトロノームをオンにしてから録音を始めてください。



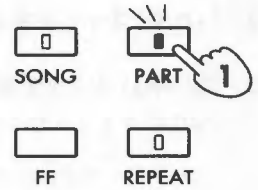
演奏を録音・再生
してみましよう

5. 2つのパートの演奏データを1つのパートにまとめるには

2つのパートに別々に録音した演奏データを一方のパートにまとめることができます。これをバウンス機能といいます。データを一方のパートにまとめると、もう一方のトラックは自動的に空になり、新たにそのパートに録音することができます。

1. [PART]スイッチを押します。

[PART]スイッチのランプが点灯し、LED画面に現在のパート番号(01~16)とパート番号の左側に選ばれているパートの状態(17ページ参照)が表示されます。



2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、2つのパートのうち、データをまとめるほうのパート(バウンス先)を選びます。

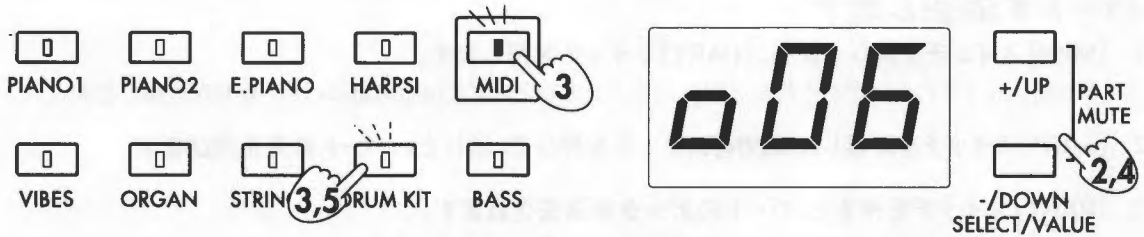
3. [MIDI]スイッチを押しながら、[DRUM KIT]スイッチを押します。

[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[DRUM KIT]スイッチのランプが点滅します。

4. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、データをまとめるもう一方のパート(バウンス元)を選びます。

5. [DRUM KIT]スイッチを押すと、バウンス元のパートのデータが操作“2”で選んだパートに重ねられ、操作“4”で選んだパートは空になります。

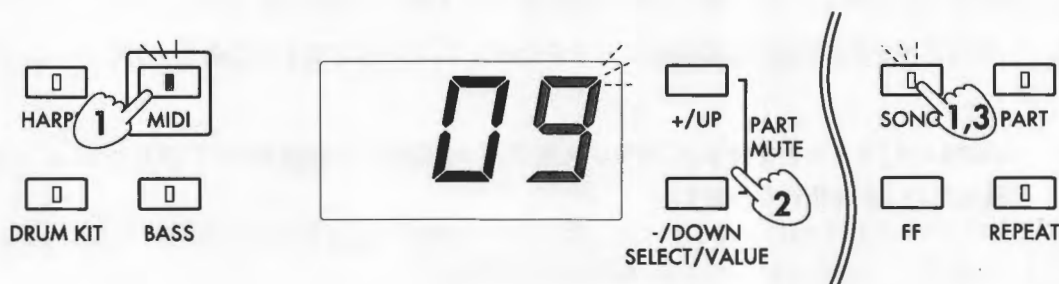
音色はバウンス先の音色になります。たとえば、ピアノ(バウンス先)とストリングス(バウンス元)とした場合、ピアノのパートに両方のデータがまとめられ、ピアノの音になります。



6. ソング/パートを消去します

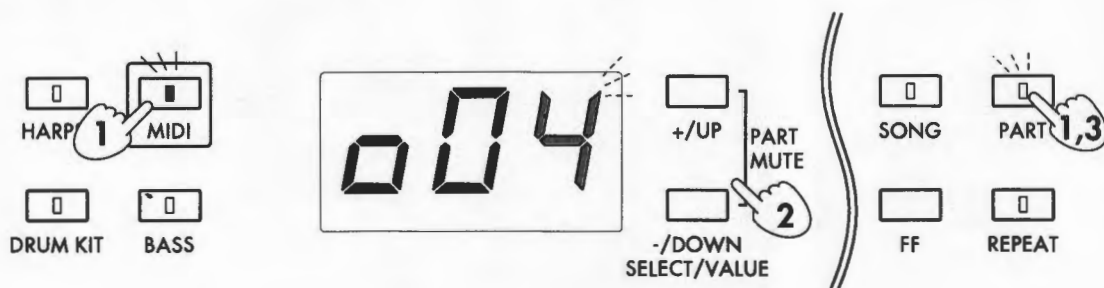
ソングを消去します

1. [MIDI]スイッチを押しながら、[SONG]スイッチを押します。
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[SONG]スイッチのランプとLED画面のソング番号が点滅します。
2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、消したいソング番号を選びます。
3. [SONG]スイッチを押すと、選んだソングデータが消去されます。
[MIDI]スイッチのランプが消灯し、LED画面のソング番号が点灯します。
ソングデータを消したくない場合は[MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押してください。



パートを消去します

1. [MIDI]スイッチを押しながら、[PART]スイッチを押します。
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[PART]スイッチのランプとLED画面のパート番号が点滅します。
2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、消したいパート番号を選びます。
3. [PART]スイッチを押すと、パートのデータが消去されます。
[MIDI]スイッチのランプが消灯し、LED画面のパート番号が点灯します。
パートのデータを消したくない場合は[MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押してください。



7. いくつかの録音方法

録音モードの設定

本機のレコーダーでは次の録音方法を選ぶことができます。

LED	録音モード	説明
0	上書き	録音時に前に録音したデータは消され、新しく録音したデータだけが残ります。
1	重ね書き	前に録音したデータと新しく録音したデータと重ね合わせます。
2	自動パンチイン/アウト	録音を始める前に録音する小節を設定し、その小節区間だけを録音します。
3	手動パンチイン/アウト	録音時にソステヌートペダルを踏んで、ある区間内を録音します。

1. [MIDI]スイッチを押しながら、[RECORD]スイッチを押します。

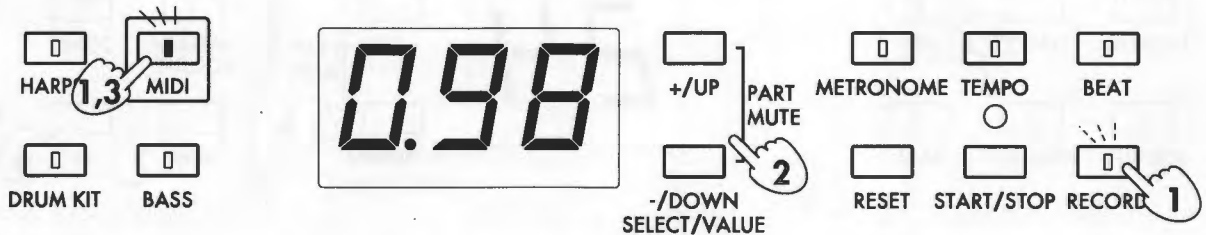
例:

0.98

録音モード メモリー残量

[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[RECORD]スイッチのランプが点滅します。LED画面には録音モードとメモリー残量が表示されます。メモリー残量については29ページをご覧ください。

2. [+UP]スイッチまたは[-DOWN]スイッチを押して、録音モード(0~3)を選びます。



3. [MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押して、設定モードから抜けます。

☛ 電源オン時は“上書き”に設定されます。

上書き

すでに録音してある演奏データに、新しい演奏データが上書きされます。新しく録音を開始した小節以降の演奏データがすべて書き換えられます。録音を終了した小節以降にも演奏データがあった場合には、それらのデータも消去されます。通常はこの方法で録音します。

- 録音モードを“0”に設定し(上記操作参照)、録音を行ってください。

重ね書き

すでに録音してある演奏データに、新しい演奏データが書き加わります。録音を開始した小節以降に録音されている演奏データは消去されずに、新しい演奏データと重なっていきます。

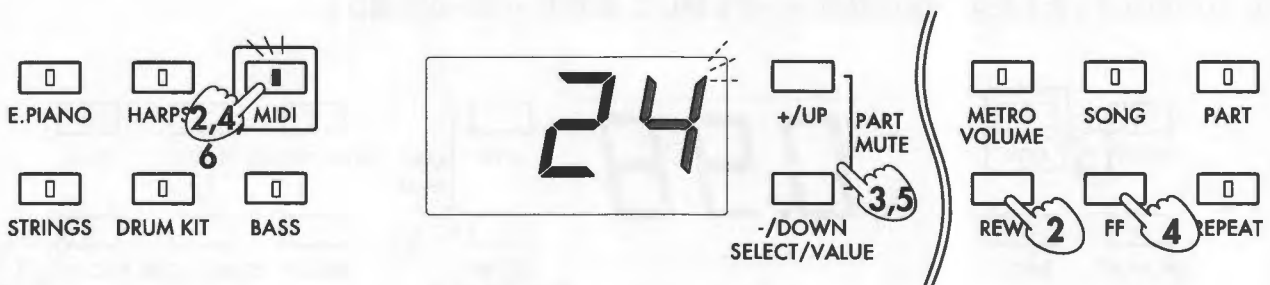
- 録音モードを“1”に設定し(上記操作参照)、録音を行ってください。

[RECORD]スイッチを押して録音待機にしているとき(18ページ操作“7”参照)、LED画面に“録音モードとメモリー残量”が点滅表示され、現在の録音モードが確認できます(このとき録音モードは変更できません)。**[START/STOP]**スイッチまたは鍵盤を押すと、重ね書き録音が始まります。

自動パンチイン/アウト

指定小節間を録音します。ある区間内を修正するときなどに便利です。最初に録音する小節を設定します。その後、通常どおり録音を開始すると指定区間内だけを録音することができます。

1. 録音モードを“2”に設定します(27ページ参照)。
2. [MIDI]スイッチを押しながら[REW]スイッチを押します。
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、LED画面に小節番号が点滅します。
3. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、録音開始(パンチイン)小節を設定します。
録音時、この小節の頭から録音が始まります。
4. [MIDI]スイッチを押しながら[FF]スイッチを押します。
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、LED画面に小節番号が点滅します。
5. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して録音終了(パンチアウト)小節を設定します。
録音時、この小節の終わりまでが録音されます。



6. [MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押して、設定画面から抜けます。
7. 通常どおり録音を始めます。

[RECORD]スイッチを押して録音待機にしているとき(18ページ操作“7”参照)、LED画面に“録音モードとメモリ残量”が点滅表示され、現在の録音モードが確認できます(このとき録音モードは変更できません)。
[START/STOP]スイッチまたは鍵盤を押すと、自動パンチイン/アウト録音が始まります。

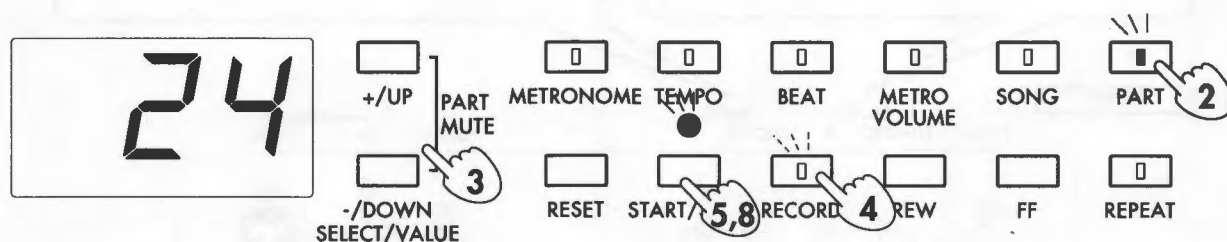
録音開始(パンチイン)小節より前の小節から必ず録音を始めてください。録音を開始すると録音開始小節まで再生され、録音開始小節から(上書き)録音が始まります。録音終了小節までくると録音が終了し、それ以降の小節から再生に切り替わります。

▲ ここでの“小節”はメトロノームで設定されている拍子とテンポに従います。そのためメトロノームの拍子、テンポに関係なく演奏を録音している場合は、実際の演奏の拍子、テンポとは一致しません。

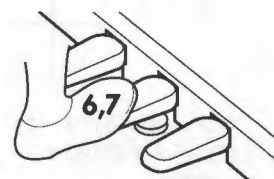
手動パンチイン/アウト

指定区間を録音します。ある区間内を修正するときなどに便利です。録音時にソステヌートペダルを踏むことで録音する小節を設定します。

1. 録音モードを“3”に設定します(27ページ参照)。
2. [PART]スイッチを押します。
[PART]スイッチのランプが点灯します。
3. [-/DOWN]または[+/UP]を押して録音したいパートを選びます。
4. [RECORD]スイッチを押します。
[RECORD]スイッチのランプが点滅し、録音待機の状態になります。
5. [START/STOP]スイッチを押して、演奏を再生します。
[START/STOP]スイッチ上のランプがテンポに合わせて点滅し、再生が始まります。この状態では[RECORD]スイッチのランプが点滅したままで、演奏は録音されていません。



6. 録音したいところで[ソステヌートペダル]を踏みます。
[RECORD]スイッチのランプが点灯に変わり、(上書き)録音が始まります。
7. 録音を終了したいところでもう一度[ソステヌートペダル]を踏みます。
[RECORD]スイッチのランプが点滅に変わり、録音が終了し、再生に切り替わります。
8. [START/STOP]スイッチを押して、演奏を停止します。
[START/STOP]スイッチ上のランプと[RECORD]スイッチのランプが消灯します。

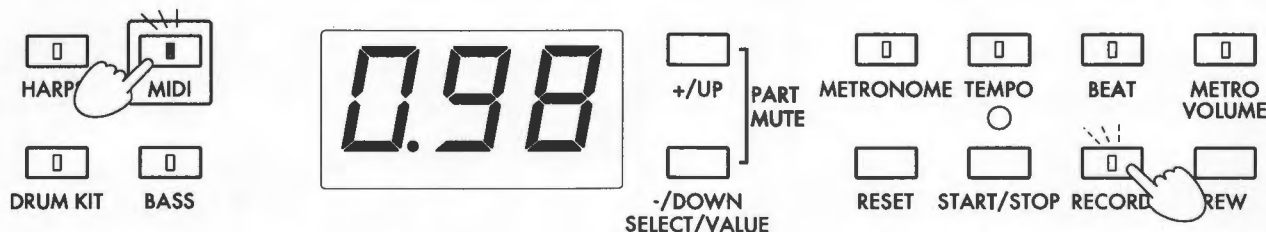


⚠ この録音モードでは、[ソステヌートペダル]がパンチイン/アウトのタイミングを設定するスイッチになるため、ソステヌートペダル機能が使用できなくなります。

録音可能なメモリーの残量表示

本体のレコーダーの録音できる容量をパーセント表示します。

- [MIDI]スイッチを押しながら、[RECORD]スイッチを押します。
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[RECORD]スイッチのランプが点滅します。LED画面に現在のレコーダーのメモリー残量が“00”～“99”の範囲で表示されます。



⚠ メモリー残量が少なくなると録音が行えなくなります。メモリー残量が少なくなったら、外部のMIDIデータファイラー等(34ページ参照)にデータを保存してから、本体内のソングやパートを消去してください(26ページ参照)。

他の機器との接続

1. シンセサイザーやオーディオ機器との接続

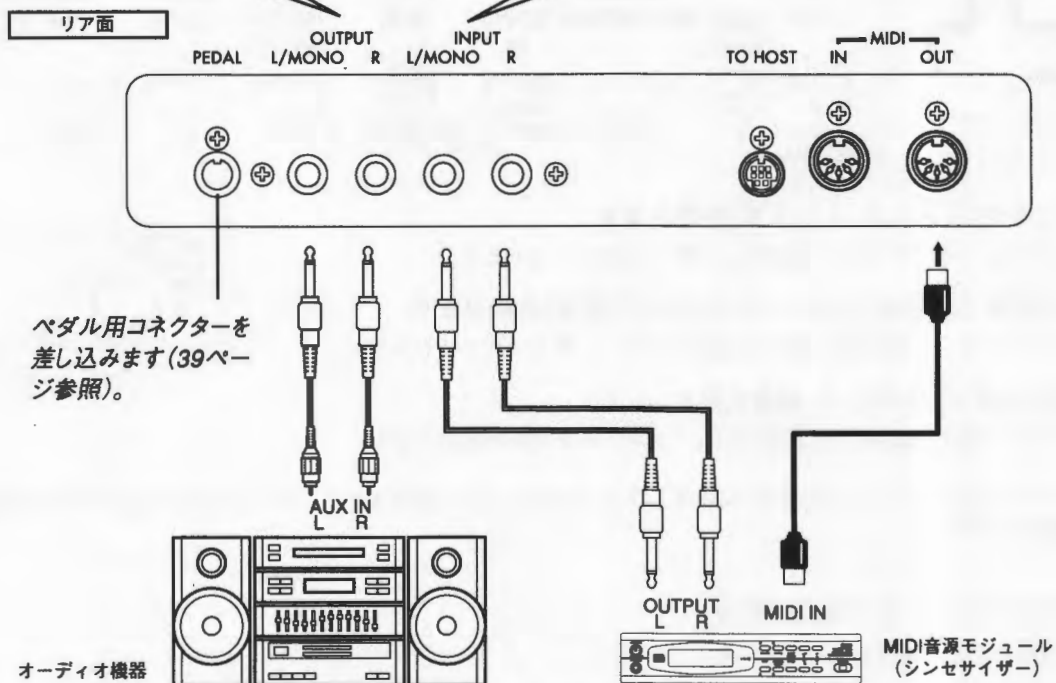
本機にシンセサイザーやオーディオ機器を接続して、本体のスピーカーから音を出したり、演奏をテープレコーダーなどに録音することができます。

[OUTPUT]端子 (L/MONO, R)

オーディオ機器のインプット端子と接続して、より大きい音を出したり、テープレコーダーなどに演奏を録音するための出力端子です。モノラルで接続するときは“L/MONO”に接続します。音量は本体の[MASTER VOLUME]スライダーで調節します。[INPUT]端子に接続した機器の音も同時に出力されます。

[INPUT]端子 (L/MONO, R)

シンセサイザーやオーディオ機器のアウトプット端子と接続して、本体のスピーカーから音を出すための入力端子です。モノラルで接続するときは“L/MONO”に接続します。音量は接続した機器のボリュームで調節してください。



2. MIDI機器との接続

MIDIとは?

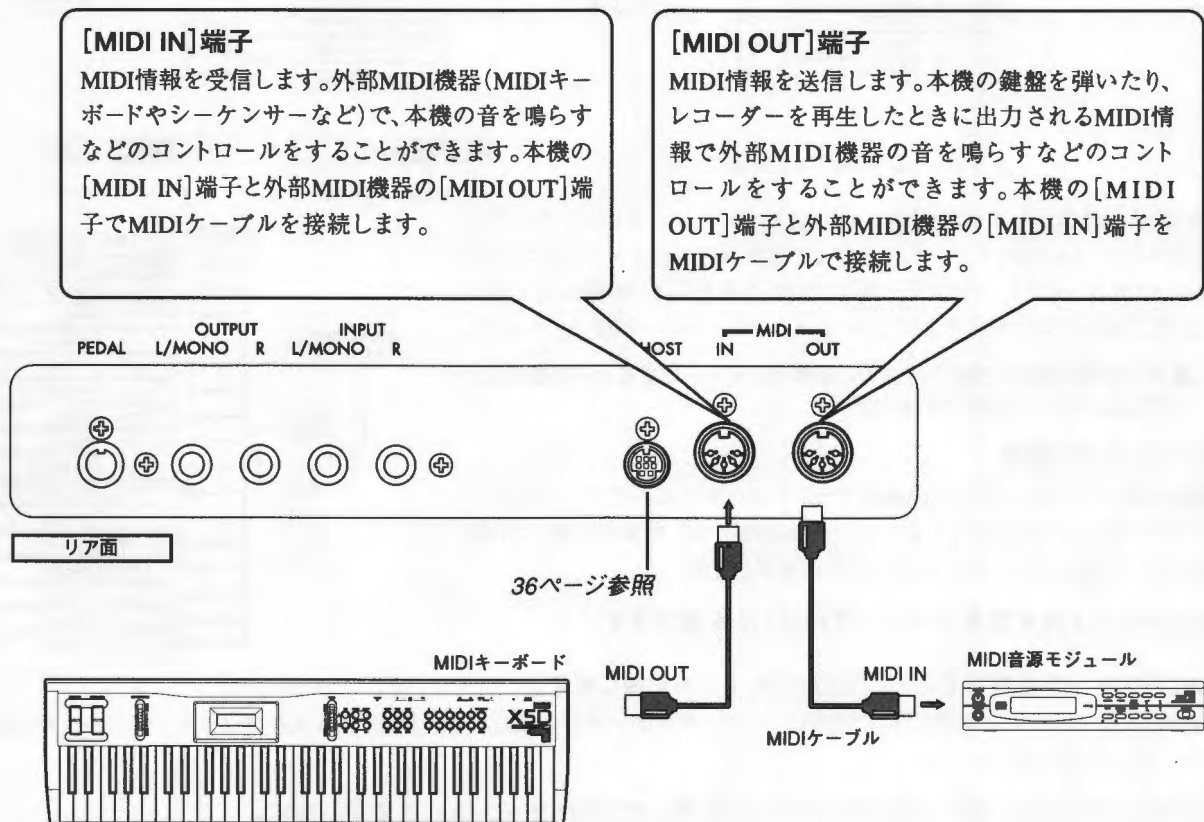
MIDI (Musical Instrument Digital Interface) は、楽器の演奏情報(鍵盤の演奏や、音色の選択など)をデジタル信号に変換して、電子楽器やコンピュータの間でやりとりするための統一規格です。

本機を演奏することによって、他のMIDIを備えた楽器を鳴らすことができます。このとき、音色の切り替えや、ダンパーペダルなどのさまざまな効果をいっしょにコントロールすることもできます。同様に他のMIDIキーボードやシーケンサー(自動演奏装置)から本機をコントロールすることもできます。

ここでは、本機に関連したMIDIの使用方法について説明します。MIDIについて興味のある方のためにMIDIについて解りやすく説明した本も数多く出版されていますのでご利用ください。

MIDI端子の接続

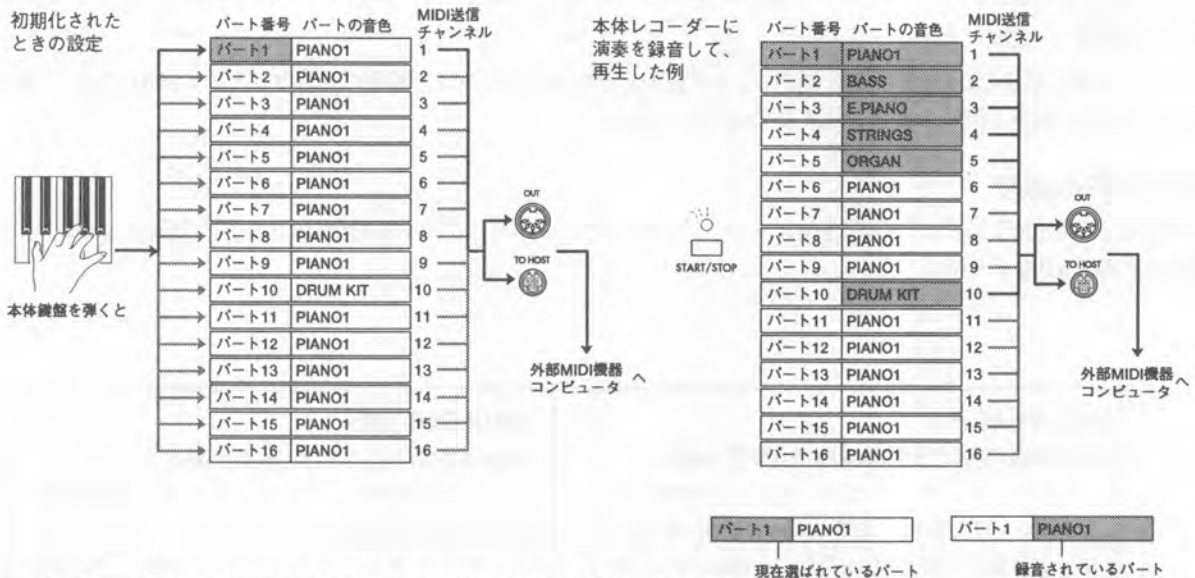
MIDI情報をやり取りするには、専用のMIDIケーブルを使います。このケーブルを本機のMIDI端子と、情報をやり取りする外部MIDI機器のMIDI端子と接続します。



MIDIチャンネルの設定

MIDI機器との接続が終わったら、本機と接続するMIDI機器とのMIDIチャンネルを合わせます。MIDIチャンネルには1~16のチャンネルがあります。

本体鍵盤を弾くと、現在選んでいるソングのパートに設定されているMIDIチャンネルで鍵盤の情報を送信します。レコーダーの演奏データは、録音したソングのパートに設定されているMIDIチャンネルで送信します。



また、外部MIDI機器からのMIDI情報は現在選んでいるソングのパートにそれぞれ設定されているMIDIチャンネルで受信します。MIDIチャンネルを各パートに振り分ければ、外部シーケンサーからの情報を受信して、本機を最大16の異なる音色で鳴らすことができます。これをマルチティンバー機能といいます。

最大同時発音数は32音です。ただし音色やレイヤーにするなどの条件により発音数が少なくなることがあります。

MIDIチャンネルの変更

本体鍵盤を弾いたときに送信するMIDIチャンネルを変えるには、パート番号を変えるのが一番早い方法です。しかしパートのMIDIチャンネルを変更したい場合があります。そのようなときには次のように変更します。

1. MIDIチャンネルを変更するソングのパートを選びます。

2. [MIDI]スイッチを押しながら、[BEAT]スイッチを押します。

[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[BEAT]スイッチのランプが点滅します。LED画面は現在選ばれているパートのMIDIチャンネルが表示されます。

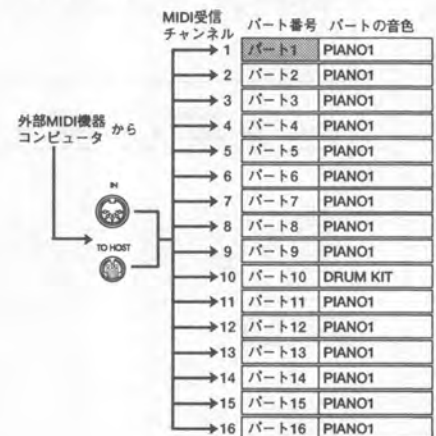
3. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、MIDIチャンネルを変更します。

初期設定のときにパートのMIDIチャンネルを変更すると、2つのパートが同一のチャンネルになってしまいます。この状態では、そのチャンネルでデータを受信したときに2つのパートに設定されているそれぞれの音色が同時に鳴ります。音色がおかしいときはもう一方のパートのMIDIチャンネルを変更したパートのMIDIチャンネルと入れ替えてください。

4. 設定が終わったら、[MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押します。

[MIDI]スイッチのランプと[BEAT]スイッチのランプが消灯します。

本機では電源をオフにしても直前の設定が記憶されています。



グローバルMIDIチャンネルの変更

システムエクスクルーシブメッセージを送受信するときは、グローバルのチャンネルで行います。本機ではアーターダンプ(34ページ参照)を行うときにグローバルMIDIチャンネルで送受信します。グローバルMIDIチャンネルは次のように設定します。

1. [MIDI]スイッチを押しながら、[VIBES]スイッチを押します。

[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[VIBES]スイッチのランプが点滅します。LED画面にグローバルMIDIチャンネルが表示されます。

2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、グローバルMIDIチャンネルを設定します。

3. 設定が終わったら、[MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押します。

[MIDI]スイッチのランプと[VIBES]スイッチのランプが消灯します。

☞ 電源を入れた直後は、自動的に1チャンネルに設定されます。

ローカルオン/オフの設定

本機の鍵盤を弾いたときに本体の音は鳴らさないでMIDI(またはTO HOST)で接続している外部の音源だけを鳴らすときや、シーケンサーを接続してシーケンサー側でエコーバック(シーケンサーが受信したデータを送り返す動作)を設定したときに、戻ってきた情報で2重に鳴るのを防ぎたいときに本機をローカルオフに設定します。通常はローカルオンに設定して鍵盤を弾いて音が鳴るようにします。

● [MIDI]スイッチを押しながら、[PIANO1]スイッチを押します。押すたびに設定が切り替わります。

[MIDI]スイッチを押している間、[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[PIANO1]スイッチのランプが点灯、または消灯します。

設定	[PIANO1]	説明
ローカルオン	消灯	鍵盤を弾くと本体の音が鳴ります
ローカルオフ	点灯	鍵盤を弾いても本体の音が鳴らず、MIDI情報を出力するだけになります

☞ 電源を入れた直後は、自動的にローカルオンに設定されています。

プログラムフィルターの設定

外部MIDI機器(シーケンサー等)で本機本体の音色を鳴らしたときに、異なる音色で再生されてしまうことがあります。また、[音色セクター]を押すとMIDI OUT(またはTO HOST)端子からプログラムチェンジとバンクセレクトを送信します。受信する外部MIDI機器によっては正しくプログラムが切り替わらないことがあります。このようなときに、ここで設定を変えることによってそれらの問題を回避します。

● [MIDI]スイッチを押しながら、[EFFECT]スイッチを押します。[EFFECT]スイッチを押すたびに設定が切り替わります。

[MIDI]スイッチを押している間、[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[EFFECT]スイッチ左上の2つのランプが設定によって点灯または消灯します。

CHORUSTREMOLO No.	説明
消灯 消灯	1 プログラムチェンジとバンクセレクトを送受信しません
点灯 消灯	2 プログラムチェンジのみを送受信します
点灯 点灯	3 両方送受信します
点灯 点滅	4 両方送受信しますが、BASS音色のバンクをバンク0、ドラムキットをバンク2として送信します

通常は“3”にしてください。音色が正しく割り当てられないときは、“2”や“4”に設定してください。

プログラムチェンジとコントロールチェンジナンバーについて

前述のプログラムフィルターを“3”または“4”に設定すると次のようにプログラムチェンジとコントロールチェンジを送受信します。括弧内が“4”のときの状態です。

バンク外		プログラムチェンジ#	音色フィルター
MSB	LSB		
0	4	0	PIANO1
0	4	1	PIANO2
0	4	2	E.PIANO
0	4	3	HARPSI
0	4	4	VIBES
0	4	5	ORGAN
0	4	6	STRINGS
62	0	0	DRUM KIT
56 (0)	0 (0)	32~39	BASS

外部のMIDIシーケンサーなどから本機の音色を切り替える場合は、コントロールチェンジ#0にMSB(表参照)を、コントロールチェンジ#32にLSB(表参照)を送り、続いてプログラムチェンジを送ります。これらの動作は「プログラムフィルターの設定」(33ページ参照)により異なります。

コントロールチェンジの設定

本体のダンパーペダルなどの情報を、接続した外部MIDI機器に送信してコントロールしたり、外部MIDI機器からボリュームやパン(音の定位)、ダンパーペダルなどの情報を受信して、本体をコントロールします。送受信するコントロールチェンジについては49ページをご覧ください。

- [MIDI]スイッチを押しながら、[PIANO2]を押します。[PIANO2]を押すたびに送受信するか、しないかが切り替わります。

[MIDI]スイッチを押している間、[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[PIANO2]スイッチのランプが設定によって点灯または消灯します。

設定	[PIANO2]	説明
イネーブル	消灯	コントロールチェンジを送受信する
ディセーブル	点灯	コントロールチェンジを送受信しない

- 🔊 この設定をディセーブルにしてもバンクセレクトを送受信します。コントロールチェンジを送受信するかしないかを設定するときは、ペダルを踏まない状態で行ってください。

本体レコーダーの演奏データをデータファイラーに保存します

本体のレコーダーに録音した演奏データを、外部のMIDIデータファイラー(記憶装置)に保存します。そして必要なときにデータファイラーから本体レコーダーに演奏データを読み込みます。これをデータダンプ機能といいます。

- 🔊 必ずデータファイラーの取扱説明書をよく読んでからここでの操作を行ってください。

本体の演奏データをデータファイラーに保管するには

1. MIDIデータダンプデータを受信可能な外部MIDI機器(データファイラー等)の[MIDI IN]端子と本機の[MIDI OUT]端子、またはコンピューターのシリアルポートと本機の[TO HOST]端子をMIDIケーブルで接続します。
2. データファイラーを操作して、本機からのMIDIデータを受信待ちの状態にします。
3. [MIDI]スイッチを押しながら、[STRINGS]スイッチを押します。
データダンプが開始し、演奏データが[MIDI OUT]端子からデータファイラーに送信されます。

- 🔊 データダンプ実行中に、本体の鍵盤やスイッチに触れないでください。データダンプに要する時間は演奏データによって異なります。

データファイラーの演奏データを本体のレコーダーに読み込むには

1. MIDIデータダンプデータを送信可能な外部MIDI機器(データファイラー等)の[MIDI OUT]端子と本機の[MIDI IN]端子、またはコンピューターのシリアルポートと本機の[TO HOST]端子を接続します。
2. 送信側のチャンネル(データファイラーに保存されている演奏データを送信するときは、そのデータを保存したときのグローバルMIDIチャンネル)と、受信側のグローバルMIDIチャンネルを合わせます。
3. データファイラーを操作して、本機の演奏データを送信します。



データダンプの実行中に、本体の鍵盤やスイッチに触れないでください。

ペダルの設定の変更の情報(「レイヤーでのペダルの設定」参照)は、データファイラーに記録しておくことはできません。

本体レコーダーと外部MIDI機器との同期

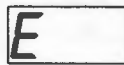
本機のレコーダーは、MIDIで接続したMIDIリズムマシンやシーケンサーなどと同時に演奏を行うことができます。これを「同期をとる」といいます。

マスター機(コントロールする側のMIDI機器)の[MIDI OUT]端子とスレーブ機(コントロールされる側)のMIDI機器の[MIDI IN]端子、またはコンピューターのシリアルポートと本機の[TO HOST]端子を接続します。

1. [MIDI]スイッチを押しながら[TEMPO]スイッチを押します。
[TEMPO]スイッチのランプが点滅します。LED画面には現在の設定が表示されます。
2. 本機がマスターのときは「In」に、スレーブのときは「E」に、[+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して選びます。
3. 本機がマスターのときは[START/STOP]スイッチを押します。同期させる外部MIDI機器については外部MIDIの取扱説明書をご覧ください。
4. 設定が終わったら、[MIDI]スイッチを押します。



内部 (Internal)



外部 (External)

[MIDI]スイッチのランプと[TEMPO]スイッチのランプが消灯します。



本体から出力されるMIDIクロック(テンポを合わせるための信号)はメトロノームのテンポに従います(接続するMIDI機器のクロックの設定などはそれぞれの取扱説明書をご覧ください)。

「E」(外部)に設定したときは、MIDIクロックが入力されないとレコーダーの再生/録音はできません。[START/STOP]スイッチを押すとLED画面に「E-」が表示されます。この表示は[TEMPO]スイッチを押したときにも現れます。

3. コンピュータとの接続

本機はコンピュータと専用のPC I/F接続ケーブルを接続することにより、コンピュータで本機を鳴らしたり、本機でのキーボード演奏をコンピュータに記録するなど前述のMIDIと同様に行えます。

本機は、次のコンピュータと専用PC I/F接続ケーブルで接続することができます。

IBM PC (互換機):

接続キットAG-001A/AG-001(接続ケーブル、ドライバーソフトウェア“KORG MIDI Driver”)[別売]。

ただし、Windowsに対応していないアプリケーションでは、特に本機をサポートしている場合を除いて、この接続ではご利用になれません。

Apple Macintosh シリーズ:

接続キットAG-002(接続ケーブル、ドライバーソフトウェア“KORG MIDI Driver”)[別売]。

NEC PC-98シリーズ:

RS-232C(SERIAL1)を利用する場合

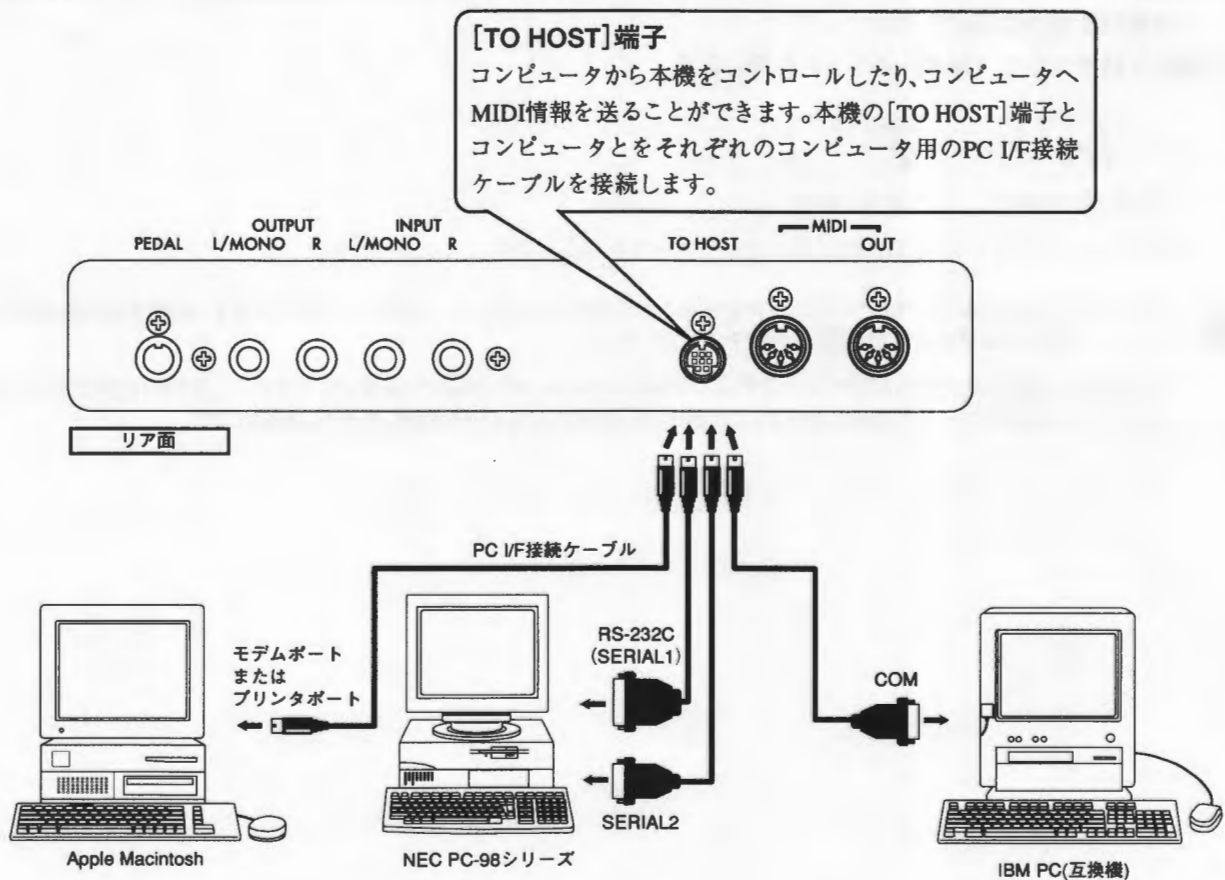
接続キットAG-003(接続ケーブル、ドライバーソフトウェア“KORG MIDI Driver”)[別売]。


ただし、コンピュータの機種、またはアプリケーション(シーケンサー)の種類によってはご使用になれませんので注意してください。アプリケーション(シーケンサー)はRS-232C/MIDI変換アダプターの使用できるもの、またはWindowsに対応しているものに限りです。

SERIAL2を利用する場合

接続キットAG-001A(接続ケーブル、ドライバーソフトウェア“KORG MIDI Driver”)[別売]。

ただし、Windowsに対応していないアプリケーションでは、特に本機をサポートしている場合を除いて、この接続ではご利用になれません。



 本機の[MIDI OUT]と[TO HOST]の両方を外部の一台の機器に接続しないでください。必ずどちらか一方だけを接続してください。

本機はコンピュータから受信したデータをMIDI OUTに送信したり、MIDI INから受信したデータをコンピュータ側へ送信することはできません。

IBM PC (互換機)との接続

1. IBM PC (互換機)のシリアルポート (COMポート)と本機の[TO HOST]端子を専用のPC I/F接続ケーブル (AG-001A/AG-001 [別売])で接続します。
コンピュータのシリアルポートが25ピンの場合は9ピン-25ピン変換アダプター (AG-004 [別売])をご利用ください。
2. [MIDI]スイッチを押しながら、[ORGAN]スイッチを押します。
3. [-/DOWN]スイッチを押して、同期周波数を“38.4”(38.4kBPS)に設定します。
4. Windowsでお使いになる場合は、KORG MIDI Driverをインストールします。インストールの方法は、40ページをご覧ください。

Apple Macintoshとの接続

1. Apple Macintoshのモデムポートあるいはプリンタポートと本機の[TO HOST]端子を専用のPC I/F接続ケーブル (AG-002 [別売])で接続します。
2. [MIDI]スイッチを押しながら、[ORGAN]スイッチを押します。
3. [+UP]スイッチを押して、同期周波数を“31.2”(31.25kBPS)に設定します。
KORG MIDI Driverをお使いになる場合は44ページをご覧ください。

NEC PC-98シリーズとの接続

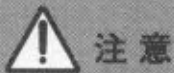
RS-232C (SERIAL1)を利用する場合

1. NEC PC-98シリーズのRS-232C (SERIAL1)端子と本機の[TO HOST]端子を専用のPC I/F接続ケーブル (AG-003 [別売])で接続します。
2. [MIDI]スイッチを押しながら、[ORGAN]スイッチを押します。
3. [+UP]スイッチを押して、LED画面の数値を“31.2”(31.25kBPS)に設定します。
4. MS-DOS上のアプリケーション (シーケンサー)をお使いになる場合は、RS-232C/MIDI変換アダプターモードに設定します。また、Windowsでお使いになる場合は、KORG MIDI Driverをインストールします。インストールの方法は、40ページをご覧ください。

SERIAL2を利用する場合

1. NEC PC-98シリーズのSERIAL2端子と本機の[TO HOST]端子を専用のPC I/F接続ケーブル (AG-001A [別売])で接続します。
2. [MIDI]スイッチを押しながら、[ORGAN]スイッチを押します。
3. [-/DOWN]スイッチを押して、同期周波数を“38.4”(38.4kBPS)に設定します。
4. Windowsでお使いになる場合は、KORG MIDI Driverをインストールします。インストールの方法は、40ページをご覧ください。

1. スタンドの組み立て方



本体組み付けは二人以上で行ってください。
 本体をスタンドに乗せるときに、手をはさまないように、
 注意してください。

部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順
 どおりに組み立ててください。

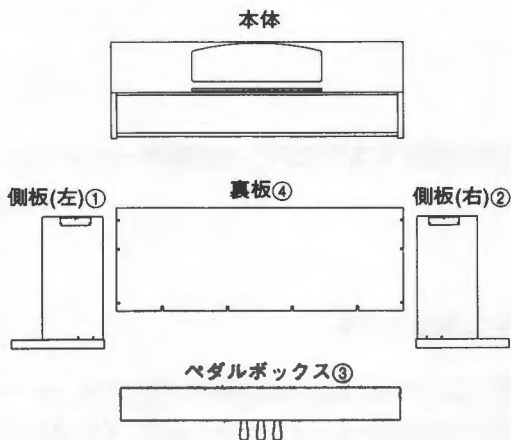
本体をネジで固定する前に、本体前側に力を掛けすぎ
 ると、本体が落下することがありますので注意してくだ
 さい。



- ① お手持ちの+ (プラス)ドライバーを用意します。



- ② 箱をあけて部品を取り出します。
 下記部品が揃っているのを確認して下さい。



ビニール袋詰め

組み付けネジ × 4 ⑤ アジャスター ⑥



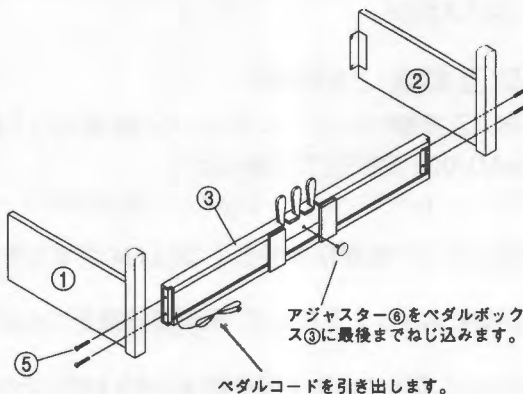
ネジ × 10 ⑦
 (3.5x16)



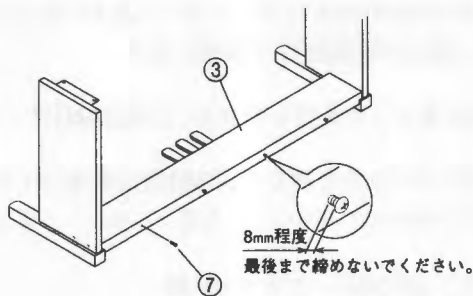
本体固定ネジ × 4 ⑧ コードホルダー × 2 ⑨



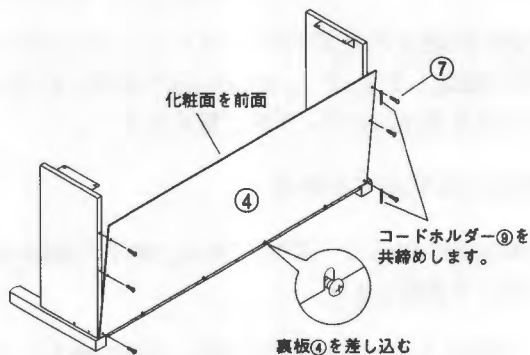
- ③ 側板(左)①と側板(右)②をペダルボックス③に組み
 付けネジ⑤4本で組み付けます。



- ④ ネジ⑦4本をペダルボックス③に仮締めします。

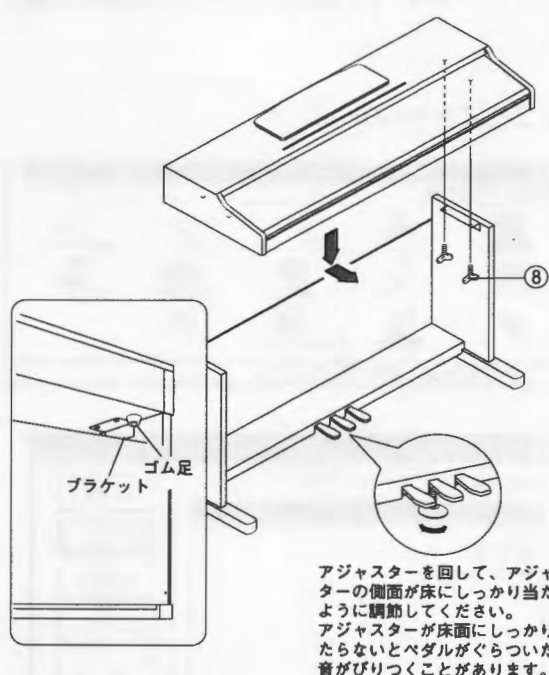


- ⑤ 裏板④を組み付けます。
 仮締めしたネジ⑦に裏板④を差し込みます。ネジ⑦6
 本で側板の下穴に合わせて裏板④を固定します。
 仮締めのネジ⑦4本を最後まで締めます。

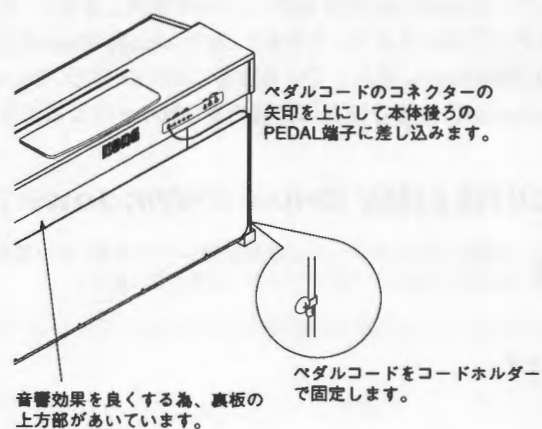


⑥ 本体を組み付けます。

本体後ろ側から乗せ、軽く持ち上げ前側に動かします。
側板のブラケットに本体底面のゴム足があたり止まります。
本体固定ネジ⑧4本で下方から固定します。



⑦ ペダルコードを接続、固定します。



組立後のチェック

- 部品は余っていませんか？
余っている場合は図中の使用先の位置を確認してください。
- 取付ネジのゆるみを確認してください。

注意
移動時の注意

ピアノ本体からスタンドを取り外して、別々に移動してください。移動後「本紙」に従い、組み付け直してください。また移動時には次のことを注意してください。

- ・電源コードは短く束ねてください。長い場合、コードが物に引っかかったりして、断線、ショートや破損の原因になります。
- ・ペダルコードをドアのノブなどに引っかけないように注意してください。

ネジの緩みについて

組み付け後、長い時間が経つとスタンド各部のネジの締め付けが緩み、スタンドの揺れがはげしくなる場合があります。このようなときには各ネジを締め直してください。


分解について

本体組み付け、スタンドの組立の逆の順番で分解してください。分解後、ネジなどの部品をなくさないように、保管してください。

2. KORG MIDI Driverのインストールとセットアップ

本機とコンピュータを接続するためのオプション[別売]AG-001A/AG-001、AG-002、AG-003には、“KORG MIDI Driver”が付属されています。IBM PC(互換機)、NEC PC-98シリーズでお使いになるアプリケーション(シーケンサー)がWindowsに対応している場合にKORG MIDI Driverを使用しますと、シリアルポート(COM, RS-232C、Serial2)に接続した本機をMIDIデバイスとして扱えるようになります。また、Apple Macintoshシリーズでお使いになるアプリケーション(シーケンサー)がApple MIDI Managerに対応している場合にKORG MIDI Driverを使用しますと、シリアルポート(モデム、プリンタ)に接続し本機とMacintoshとの間で相互に情報のやり取りが行えるようになります。

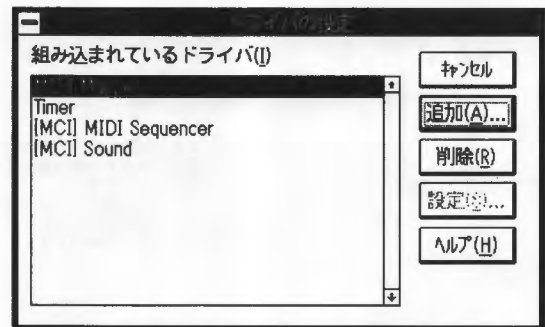
KORG MIDI DriverのWindows 3.1へのインストール

 お使いのコンピュータの処理速度が十分に速くない場合、MIDI INデータを正しく受信できないことがあります。

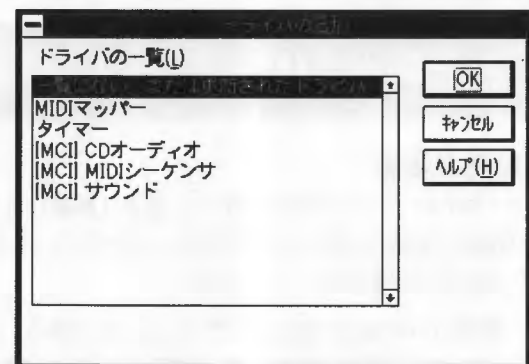
1. コントロールパネルの中のドライバアイコンをダブルクリックします。



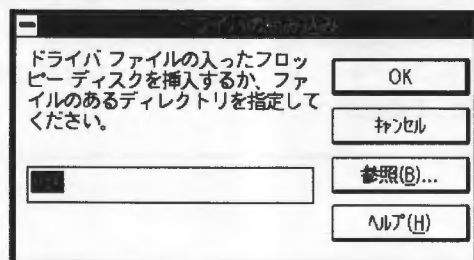
2. [追加] ボタンをクリックします。



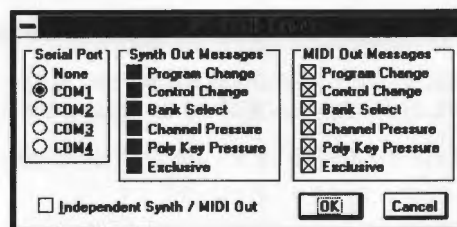
3. ドライバの一覧の中から[一覧にない、または更新されたドライバ]を選び、[OK] ボタンをクリックします。



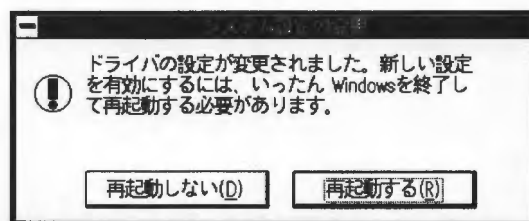
4. AG001A/AG-001、AG-003の付属ディスクをコンピュータのドライブに挿入します。Aドライブに入れた場合は“A:¥”(Bドライブの場合は“B:¥”)と入力し、[OK] ボタンをクリックします。ただし、PC-98シリーズでAG-001Aの付属ディスクからインストールする場合は、ディスクをAドライブに入れた場合は“A:¥PC98”(Bドライブの場合は“B:¥PC98”)と入力し、[OK] ボタンをクリックしてください。



5. KORG PC/IF Driverを選び、[OK] ボタンをクリックすると、セットアップの画面になります。次の「KORG MIDI Driver (Windows) のセットアップ」に従って、セットアップを行ってください。

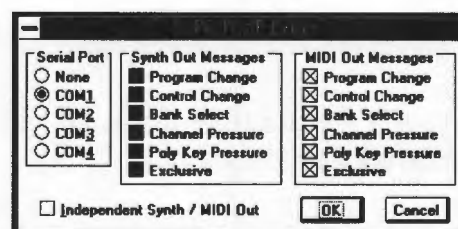


6. セットアップ後、ドライバを有効にするために、ディスクを取り出し、[再起動する]を選択します。



KORG MIDI Driver (Windows) のセットアップ

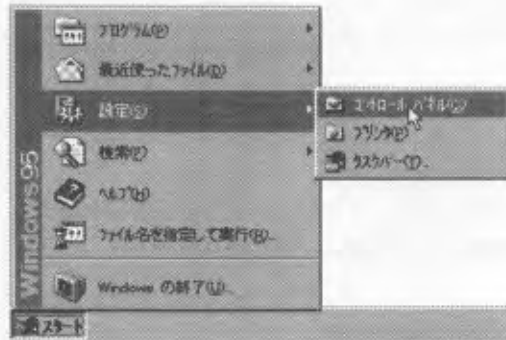
- コントロールパネルの中のドライバアイコンをダブルクリックし、[KORG PC/IF Driver]を選び、設定のボタンをクリックするとセットアップの画面になります。
- Serial Portでは本機を接続したシリアルポートを[COM1]～[COM4]の中から選びます。PC-98シリーズではRS-232C (SERIAL1)に接続している場合は[COM1]に、SERIAL2に接続している場合は[COM2]を選んでください。
KORG MIDI Driverを組み込んだ後に、シリアルポートを別の用途に使うときには、ドライバを削除 (Delete) するか、または[None]を選んでドライバを無効にしてください。
- 本機と接続したときは、[Independent Synth/MIDI Out]は使用しませんので、チェックしないでください。チェックすると誤動作の原因になります。
- [MIDI Out Messages]では本機へ送るメッセージを選ぶことができます。
- 選択が終わったら[OK]ボタンをクリックします。また、無効にしたい場合は[Cancel]をクリックします。



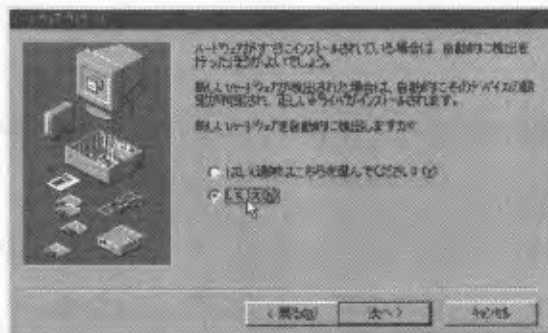
KORG MIDI DriverのWindows95へのインストール

! お使いのコンピュータの処理速度が十分に速くない場合、MIDI INデータを正しく受信できないことがあります。

1. タスクバーの[スタート]ボタンをクリックして、[設定]の中の[コントロールパネル]をクリックします。



2. コントロールパネルの中の[ハードウェア]アイコンをダブルクリックすると、ハードウェアウィザードが起動するので[次へ>]ボタンをクリックします。



3. 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか?」という質問に対して、必ず[いいえ]を選び、[次へ>]ボタンをクリックします。

4. [サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ]を選び、[次へ>]ボタンをクリックします。

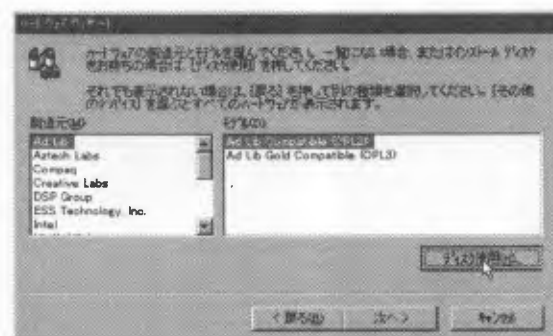


5. [ディスク使用]をクリックします。

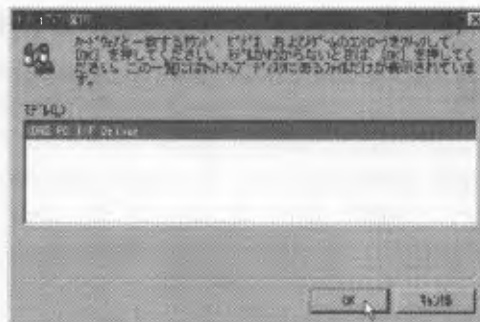
ドライブとディレクトリを指定するダイアログが表示されます。

6. **AG001A/AG-001**、AG-003の付属ディスクをコンピュータのドライブに挿入します。Aドライブに入れた場合は“A:¥” (Bドライブの場合は“B:¥”)と入力し、[OK]ボタンをクリックします。

ただし、PC-98シリーズでAG-001Aの付属ディスクをインストールする場合は、ディスクをAドライブに入れた場合は“A:¥PC98” (Bドライブの場合は“B:¥PC98”)と入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。



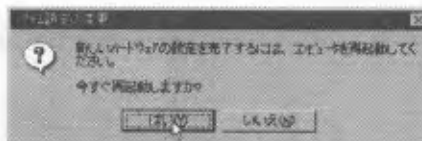
7. [OK] ボタンをクリックして、[完了]をクリックします。



8. 「KORG MIDI Driver (Windows) のセットアップ」(41ページ)に従ってセットアップを行い、[OK] ボタンをクリックします。

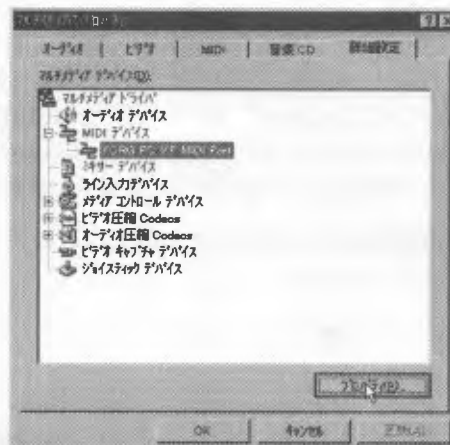


9. ドライバーを有効にするために必ず再起動させてください。



KORG MIDI DriverのWindows95のセットアップを変更する場合

1. コントロールパネルの中の[マルチメディア]アイコンをダブルクリックすると、マルチメディアのプロパティダイアログが表示されます。
2. 右上の[詳細設定]タブをクリックします。
3. [MIDIデバイス]の[+]をクリックして(表示が[-]に変わります)[KORG PC I/F MIDI Port]をクリックします。
4. [プロパティ]ボタンをクリックします。

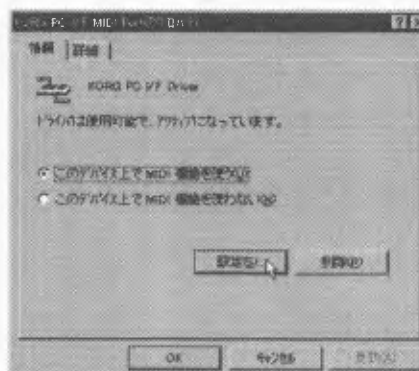


KORG PC I/F MIDI Portのプロパティが表示されます。

5. [設定]ボタンをクリックします。

「KORG MIDI Driver (Windows) のセットアップ」(41ページ)に従ってセットアップを行い、[OK] ボタンをクリックします。

設定を変更した場合にはWindowsを再起動させてください。

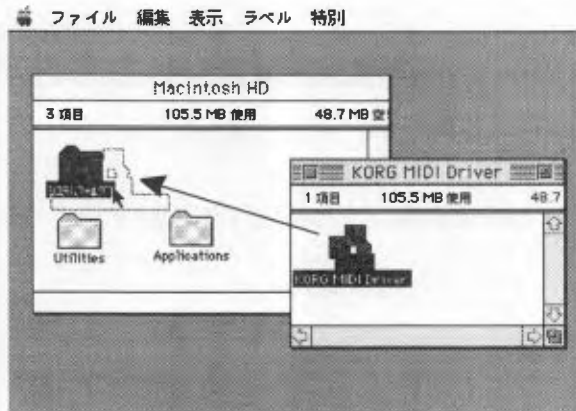


KORG MIDI DriverのMacintoshへのインストール

▲ KORG MIDI Driverを使用するには、あらかじめApple MIDI ManagerおよびPatchBayがインストールされている必要があります。Apple MIDI ManagerおよびPatchBayは、お使いのMIDIアプリケーションに付属されているものをお使いください。AG-002には付属されていません。

KORG MIDI Driverを使うと、“Modem MIDI Out/Port setting”ダイアログ(45ページ参照)で本機に送るMIDIチャンネルとメッセージの種類を設定することができます。そのような機能が必要ない場合は、KORG MIDI Driverを使わずに、Apple MIDI Driverをそのまま使用することができます。Apple MIDI Driverを使う場合や、Apple MIDI Managerを使用しないMIDIアプリケーション(シーケンサー)を使う場合は45ページをご覧ください。

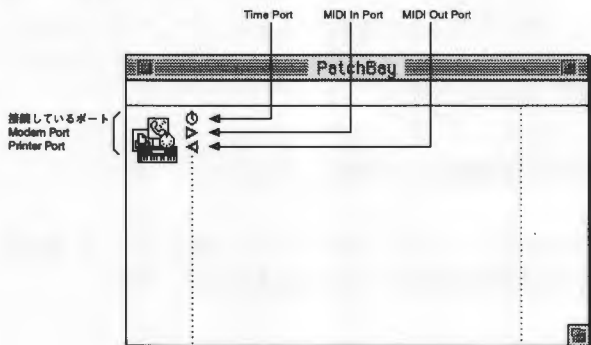
1. AG-002の付属ディスク内のKORG MIDI Driverを起動ディスクのシステムフォルダにコピーします。
2. システムフォルダ内にApple MIDI Driverがあるときは削除するか、他のフォルダに移動してください。Apple MIDI Managerは削除や移動を行わないように注意してください。
※ KORG MIDI Driverは、Apple MIDI Driverの機能を含んでいます。
3. 特別メニューから“再起動”を選択します。



KORG MIDI Driver (Macintosh) のセットアップ

1. PatchBayを起動します。

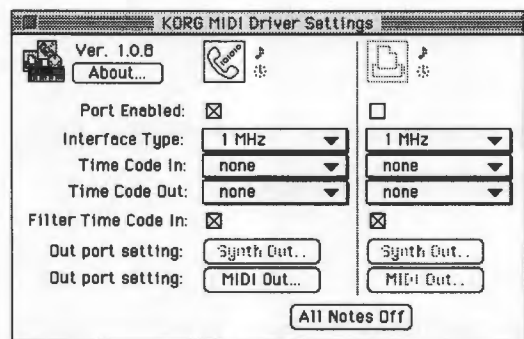
インストールが正しく行われた後、PatchBayを起動すると右図のようにPatchBayウィンドウ内にKORG MIDI Driverのアイコンが表示されます。(Modem/Printerの各ポートはセットアップの状態により表示が異なる場合があります。)



2. PatchBayの中のKORG MIDI Driverのアイコンをダブルクリックします。

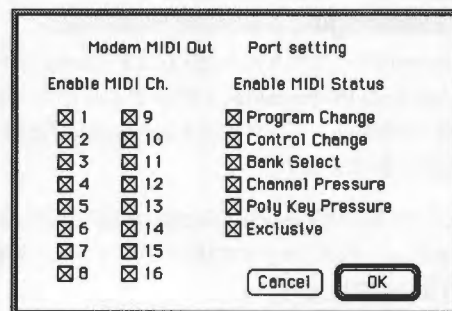
セットアップダイアログが表示されます。


3. 本機を接続しているポートのPort Enabledをチェックし、Interface Typeを[1MHz]に設定します。(本機には、KORG PC IFが内蔵されていませんので、[KORG PCIF]は選択しないでください。)
4. [Out Port Setting] ボタンを押します。



次のダイアログが現れます。ここで各ポートへ出力されるMIDIチャンネル/メッセージを選択することができます。チェックされているチャンネル/メッセージのみ出力します。

5. 設定後、[OK] ボタンを押します。
6. MIDIアプリケーション(シーケンサー)を起動して、MIDIアプリケーションのOut Portの◀からマウスをドラッグしてMIDI DriverのMIDI Outに接続します。



・ PatchBayの使用方法については、“”メニューの“About PatchBay...”等の説明をご覧ください。

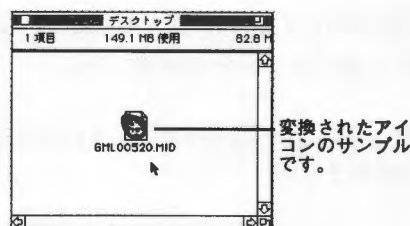
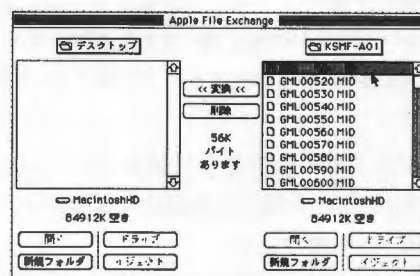
Apple MIDI Driverを使う場合は、(KORG MIDI Driverがシステムフォルダ内にあるときは、削除または移動した後) PatchBayを起動し、その中のApple MIDI Driverのアイコンをダブルクリックして、本機を接続したPortのEnabledをチェックし、Interface Typeを[1MHz]に設定して、ダイアログを閉じます。PatchBay上で、MIDIアプリケーション(シーケンサー)のOutPortの◀からマウスをドラッグして、MIDI Outに接続します。

Apple MIDI Managerを使用しないMIDIアプリケーション(シーケンサー)を使う場合は、MIDIアプリケーション本機が接続されているPortを選択し、クロックの設定を[1MHz]に設定してください。

AG-002付属のMIDI File Translatorについて

市販のスタンダードMIDIファイル(SMF)のソングファイルのほとんどが、MS-DOSフォーマットで保存されています。AG-002に付属されているMIDI File Translatorは、これらのMS-DOSのSMFソングファイルをMacintoshのMIDIアプリケーションがSMFとして認識できるように変換するApple File Exchange用のTranslator(翻訳プログラム)です。

1. MIDI File TranslatorをApple File Exchangeと同じフォルダに入れます。
2. Apple File Exchangeをダブルクリックして、起動します。
3. 変換したいMS-DOSディスクをドライブに挿入します。
右のような画面が現れます(画面上はKORG SMFライブラリKSMF-A01です)。MS-DOSフォーマットのディスクは必ず“Apple File Exchange”を起動させてから、ディスクドライブに入れてください。
4. 変換したいソング(曲)ファイルを選びます。
5. 中央の「<<変換<<」(又は「>>変換>>」) ボタンを押します。
変換が始まります。棒グラフが100%までいくと、変換が完了します。左側のボックスに変換されたファイルが現れます。
6. Apple File Exchangeを終了します。



PC ExchangeによるSMFの変換方法

MacintoshのシステムにApple File Exchangeが付属されていない場合は、PC Exchangeを使用することで、MS-DOSフォーマットのSMFソングファイルをMacintoshで認識できるようにすることができます。

例として、KORG Audio Gallery[別売]に付属されているMIDI PlayerでMS-DOSのSMFソングファイルを開くための設定方法を説明します。

1. コントロールパネル内のPC Exchangeを開きます。

PC Exchangeのコントロールパネルが現れます。

2. [追加...]ボタンを押します。
[DOS拡張子に対応するアプリケーションの指定]ウィンドウが現れます。

3. DOS拡張子項目に“MID”と入力します。
MS-DOSでは、ファイルの種類を分類するために拡張子というピリオドの後に続く3文字をファイル名の後につけます。SMFには、“.MID”という拡張子をつけるのが一般的です。

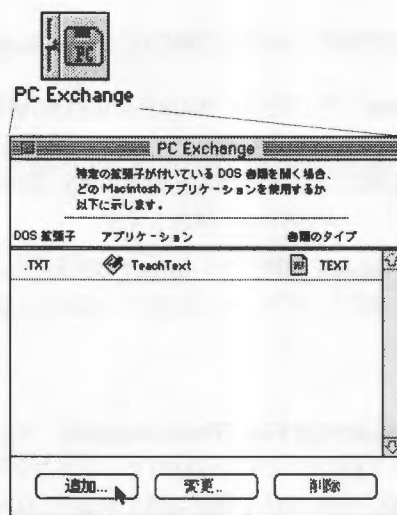
4. ダイアログの下半分に表示されている一覧から、お持ちのSMFを扱えるMIDIアプリケーション(シーケンサー)を選びます。
ここでは例として、[MIDI Playerエ v1.0.1]を選びます。アプリケーション項目に選択したアイコンが現れます。

5. [書類のタイプ]ポップアップメニューから[Midi]を選び、[OK]ボタンをクリックします。

PC Exchangeウィンドウに追加された項目が表示され、登録されました。

MS-DOSのSMFをディスクドライブに挿入すると、そのまま使用することができます。

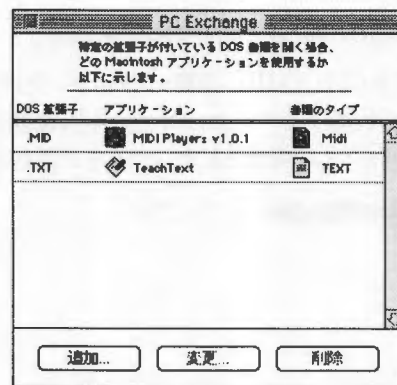
* 詳しくは“Macintosh PC Exchange”の解説をご覧ください。



DOS拡張子項目に“MID”と入力します。 [midi] を選びます。



SMFを扱えるMIDIアプリケーションを選びます。



3. MIDIインプリメンテーション

1. TRANSMITTED DATA

1-1 CHANNEL MESSAGES

Status	Second	Third	Description	ENA
1000 nnnn	0kkk kkkk	0100 0000	Note Off kkk kkkk = 16-114	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Note On kkk kkkk = 16-114 vvv vvvv = 8-127	A
1010 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Poly Key Pressure (Recorded Data)	C, Q
1011 nnnn	0000 0000	0mmm mmmm	Bank Select(MSB)	*1 P
1011 nnnn	0010 0000	0111 1111	Bank Select(LSB)	*1 P
1011 nnnn	0100 0000	0vvv vvvv	Damper Pedal	C
1011 nnnn	0100 0010	0000 0000	Sostenuto Off	C
1011 nnnn	0100 0010	0111 1111	Sostenuto On	C
1011 nnnn	0100 0011	0vvv vvvv	Soft Pedal	C
1011 nnnn	00cc cccc	0vvv vvvv	Control Data (Recorded Data)	C
1100 nnnn	0ppp pppp	---- ----	Program Change ccc cccc = 0-127 ppp pppp = 0-127	*1 P

nnnn : MIDI Channel No. (0-15)
vvvv : Value

ENA = A : Always Enabled
C : Enabled when Control Filter is ENA
P : Enabled when Program Filter is ENA
Q : Enabled when sequence is playing (transmitting)
or recording (receiving)

*1 :
Program : MIDI Out
PIANO1 - STRINGS : mm, 11, pp = 00, 04, 00 - 06
Drum kit : mm, 11, pp = 3E, 00, 00
Bass1 - Bass8 : mm, 11, pp = 38, 00, 20 - 27

1-2 SYSTEM COMMON MESSAGES

Status	Second	Third	Description
1111 0010	0sss ssss	0ttt tttt	Song Position Pointer sss ssss : Least significant(LSB)*2 ttt tttt : Most significant(MSB) *2
1111 0011	0000 ssss	---- ----	Song Select ssss : Sont No. = 0-9

*2 : For Example Time Signature = 4/4, 8/8
tt, ss = 00, 10 / Measure

1-3 SYSTEM REALTIME MESSAGES

Status	Description
1111 1000	Timing Clock *3
1111 1010	Start *3
1111 1011	Continue *3
1111 1100	Stop *3
1111 1110	Active Sensing

*3 : Transmits when Recorder is playing or recording (Internal Clock)

1-4 UNIVERSAL SYSTEM EXCLUSIVE MESSAGE (DEVICE INQUIRY REPLY)

Byte	Description
1111 0000	Exclusive Status
0111 1110	Won Realtime Message
0000 gggg	MIDI GLOBAL CHANNEL (DEVICE ID)
0000 0110	INQUIRY MESSAGE
0000 0010	IDENTITY REPLY
0100 0010	KORG ID (MANUFACTURERS ID)
0100 0011	XC-series ID (FAMILY CODE (LSB))
0000 0000	(FAMILY CODE (MSB))
0001 1101	(MEMBER CODE (LSB))
0000 0000	(MEMBER CODE (MSB))
0*** ****	ROM No. 1- (Minor Ver. (LSB))
0000 0000	(Minor Ver. (MSB))
0*** ****	SOFT VER. 1- (Major Ver. (LSB))
0000 0000	(Major Ver. (MSB))
1111 0111	END OF EXCLUSIVE

Transmits when INQUIRY MESSAGE REQUEST Received

1-5 STRUCTURE OF KORG SYSTEM EXCLUSIVE MESSAGES

1st Byte = 1111 0000 : Exclusive Status
2nd Byte = 0100 0010 : KORG ID Ex. Header
3rd Byte = 0011 gggg : Format ID g:Global Ch.
4th Byte = 0100 0011 : XC-series ID
5th Byte = 0fff ffff : Function Code
6th Byte = 0ddd dddd : Data
LastByte = 1111 0111 : End of Exclusive EOF

2. RECOGNIZED RECEIVE DATA

2-1 CHANNEL MESSAGES

Status	Second	Third	Description	ENA
1000 nnnn	0kkk kkkk	0xxx xxxx	Note Off	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0000 0000	Note Off	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Note On vvv vvvv = 1-127	A
1010 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Poly Key Pressure (for Seq. rec)	C, Q
1011 nnnn	0000 0000	0mmm mmmm	Bank Select(MSB)	*1 P
1011 nnnn	0000 0001	0vvv vvvv	Modulation Depth (Pitch Modulation)	C
1011 nnnn	0000 0010	0vvv vvvv	Modulation2 Dapth (CutOff Modulation)	C
1011 nnnn	0000 0110	0vvv vvvv	Data Entry(MSB)	C
1011 nnnn	0000 0111	0vvv vvvv	Volume	C
1011 nnnn	0010 0000	0111 1111	Bank Select(LSB)	*1 P
1011 nnnn	0010 0110	0vvv vvvv	Data Entry(LSB)	C
1011 nnnn	0100 0000	0vvv vvvv	Damper Pedal	C
1011 nnnn	0100 0010	00xx xxxx	Sostenuto Off	C
1011 nnnn	0100 0010	01xx xxxx	Sostenuto On	C
1011 nnnn	0100 0011	0vvv vvvv	Soft Pedal	C
1011 nnnn	0100 1000	0vvv vvvv	Release Time	*4 C
1011 nnnn	0100 1001	0vvv vvvv	Attack Time	*4 C
1011 gggg	0101 1100	0000 0000	Effect1 OFF	C
1011 gggg	0101 1100	0xxx xxxx	Effect1 ON	C
1011 gggg	0101 1110	0000 0000	Effect2 OFF	C
1011 gggg	0101 1110	0xxx xxxx	Effect2 ON	C
1011 nnnn	0110 0100	0000 00rr	RPN Parameter No. (LSB)	*3 A
1011 nnnn	0110 0101	0000 0000	RPN Parameter No. (MSB)	*3 A
1011 nnnn	0111 1000	0000 0000	All Sound Off	C
1011 nnnn	0111 1001	0000 0000	Reset All Controllers	C
1011 nnnn	0111 1010	0000 0000	Local Control Off	A
1011 nnnn	0111 1010	0111 1111	Local Control On	A
1011 nnnn	0111 1011	0000 0000	All Notes Off	A
1011 nnnn	0111 110x	0000 0000	Omni Mode Off/On (All Notes Off)	A
1011 nnnn	0111 1110	000m mmmm	Mono Mode On (All Notes Off)	A
1011 nnnn	0111 1111	0000 0000	mmm = 0-16 Poly Mode On (All Notes Off)	A
1100 nnnn	0ppp pppp	---- ----	Program Change	*1, *2 P
1101 nnnn	0vvv vvvv	---- ----	Channel Pressure	C
1110 nnnn	0bbb bbbb	0bbb bbbb	Bender Change	C

9999 : Global Channel
 XXX XXXX : random (>0)

*1 : MIDI In : Program
 00, 04, 00 - 06 : PIANOL - STRINGS
 38, 00, 20 - 27 : Bass1 - Bass8
 3E, 00, 00 : Drum Kit
 *2 : After processing (while Exclusive = ENA)
 transmits exclusive message
 [DATA LOAD COMPLETED] or [DATA LOAD ERROR].
 *3 : rr = 0 : Pitch Bend Sensitivity
 = 1 : Fine Tune
 = 2 : Coarse Tune
 *4 : vv < 40 : Fast
 = 40 : No change
 > 40 : Slow

2-2 SYSTEM COMMON MESSAGES

Status	Second	Third	Description
1111 0010	0sss ssss	0ttt tttt	Song Position Pointer
1111 0011	000s ssss	---- ----	Song Select

2-3 SYSTEM REALTIME MESSAGES

Status	Description
1111 1000	Timing Clock
1111 1010	Start
1111 1011	Continue
1111 1100	Stop
1111 1110	Active Sensing

2-4 UNIVERSAL SYSTEM EXCLUSIVE MESSAGE (NON REALTIME)

Byte	Description
1111 0000	EXCLUSIVE STATUS
0111 1110	NON REALTIME MESSAGE
0ggg gggg	MIDI CHANNEL *5
0000 aaaa	SUB ID 1 *6
0000 00bb	SUB ID 2 *6
1111 0111	END OF EXCLUSIVE

*5 : gg = 0-F : Received if Global Channel
 = 7F : Received on any Channel
 *6 : a, b = 06, 01 : INQUIRY MESSAGE REQUEST
 09, 01 : GENERAL MIDI MODE ON
 (Received anytime except when Seq playing/recording)

2-5 UNIVERSAL SYSTEM EXCLUSIVE MESSAGE (REALTIME)

Byte	Description
1111 0000	EXCLUSIVE STATUS
0111 1111	REALTIME MESSAGE
0ggg gggg	MIDI CHANNEL *5
0000 0100	SUB ID 1
0000 00bb	SUB ID 2 *7
0vvv vvvv	VALUE(LSB) *7
0mmm mmmm	VALUE(MSB) *7
1111 0111	END OF EXCLUSIVE

*7 : b = 01 : MASTER VOLUME (mm, vv = 00,00 - 7F, 7F : Min - Max)
 = 02 : MASTER BALANCE
 (mm, vv = 00, 00 - 40, 00 - 7F, 7F : L - Center - R)

3. MIDI EXCLUSIVE FORMAT (R:Receive, T:Transmit)

ALL SONG DATA DUMP

Byte	Description
F0, 42, 3g, 43	EXCLUSIVE HEADER
0100 1000	ALL SONG DATA DUMP
0sss ssss	Seq. Data Size
0ddd dddd	Control Data
0ddd dddd	Sequence Data
1111 0111	EOX

[デジタルピアノ]

FC-500 / WP-500 MIDIインプリメンテーションチャート

ファンクション…	送 信	受 信	備 考
ベーシック電源ON時 チャンネル 設定可能	1 1~16	1 1~16	
モード電源ON時 メッセージ 代用	× *****	3 ×	
ノート ナンバー：音域	16~114 *****	0~127 0~108	レコーダーデータは送信時0~127 一部の音色で受信0~127
ペロシティ ノート・オン ノート・オフ	8~127 ×	1~127 ×	レコーダーデータは送信時2~126
アフター キー別 タッチ チャンネル別	× ×	○ ○	キー別はレコーダーデータのみ
ピッチ・ベンド	×	○	*C
コントロール チェンジ	0,32 ○ 1,2 × 6,38 × 7 ○ 10 × 11 × 64 ○0~127 66 ○ 67 ○0~127 72,73 × 92,94 × 100,101 × 120,121 × 0~101 ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○0~127 ○ ○0~127 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	バンクセレクト *P モジュレーション *C データエントリー ボリューム *C パンポット *C,*3 エクスプレッション *C ダンパペダル *C ソステヌートペダル *C ソフトペダル *C EGタイム *C エフェクト1,2 ON/OFF *C RPN *2 オールサウンドオフ,リセットオールコントローラ (シーケンスデータ)
プログラム チェンジ：設定可能範囲	○0~127 *****	○0~127	*P
エクスクルーシブ	○	○	Device Inquiry Sequence Data Dump
：ソング・ポジション コモン：ソング・セレクト ：チューン	○ ○0~9 ×	○ ○0~9 ×	*1 *1
リアルタイム：クロック ：コマンド	○ ○	○ ○	*1 *1
：ローカル・ON/OFF その他：オール・ノート・オフ ：アクティブ・センシング ：リセット	× × ○ ×	○ ○123~127 ○ ×	
備考	*C：コントロールチェンジがイネーブルに設定されているとき(送)受信する。 *P：プログラムチェンジがイネーブルに設定されているとき(送)受信する。 *1：クロックがインターナルのとき送信し受信しない。エクスターナルのときはその逆。 *2：LSB,MSB=00,00:ピッチベンドレンジ,=01,00:ファインチューン,=02,00:コースチューン *3：[PIANO1],[PIANO2]は除く。		

モード1：オムニ・オン、ポリ

モード2：オムニ・オン、モノ

○：あり

モード3：オムニ・オフ、ポリ

モード4：オムニ・オフ、モノ

×：なし

4. [DRUM KIT] (ドラムキット) マップ

Key	DRUM KIT	Ex. asn
21	Rock Kick	Off
23	Snare 3	Group6
24	Open HHS	Group1
26	Fat Kick	Off
28	Timbale-Paila	Off
29	Snare 1	Group6
30	RollSnare1	Group6
31	Real Kick	Off
33	ProcessKick	Off
35	Side Stick	Off
36	Rock Snare	Group6
37	Hand Claps	Off
38	LightSnare	Group6
39	Tom Lo	Off
40	Tit HH	Group1
41	Tom Lo	Off
42	Pedal HH	Group1
43	Tom Lo	Off
44	Open HHL	Group1
45	Tom Hi	Off
46	Tom Hi	Off
47	Crash Cym	Off
48	Tom Hi	Off
49	Ride Edge	Off
50	China Cym	Off
51	Ride Cup	Off
52	Tambourine	Off
53	Splash Cym	Off
54	Cowbell	Off
55	Crash Cym	Off
56	Vibraslap	Off
57	Ride Cym 1	Off
58	Hi Bongo	Off
59	Lo Bongo	Off
60	Mute Conga	Off
61	Open Conga	Off
62	Open Conga	Off
63	Hi Timbale	Off
64	Lo Timbale	Off
65	Agogo	Off
66	Agogo	Off
67	Cabasa	Off
68	Maracas	Off
69	Whistle S	Group2
70		
71		

本機の[DRUM KIT]はGMに準拠しています。(KEY35~81がGMで規定されているサウンドです)

Key:MIDIノートナンバー。

Ex.asn:同一Group内ではモノで発音します(例タイトハイハットとオープンハイハット)。

↓:矢印で指しているサウンドと同じ内容です。 - :発音しません。

5. 操作スイッチ機能一覧

本機の操作スイッチの機能一覧です。

表記について

☑:単独でスイッチを押したときの機能。☑☑:[MIDI]スイッチを押しながら各スイッチを押したときの機能。

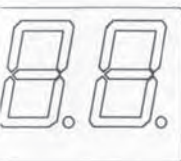
2つの[音色セクター]を同時に押す:レイヤー(p.7)

☑ 音色の選択 (p.6)	☑ 音色の選択 (p.6)	☑ 音色の選択 (p.6)	☑ 音色の選択 (p.6)	☑☑ このスイッチに関する設定の表示
☑☑ ローカルオン/オフ (p.33)	☑☑ コントロールチェンジ (p.34)			☑☑ 他のスイッチと組み合わせて設定
PIANO1	PIANO2	E.PIANO	HARPSI	MIDI
VIBES	ORGAN	STRINGS	DRUM KIT	BASS
☑ 音色の選択 (p.6)	☑ 音色の選択 (p.6)	☑ 音色の選択 (p.6)	☑ 音色の選択 (p.6)	☑ 音色の選択 (p.6)
☑☑ グローバルMIDI ch. (p.33)	☑☑ PCFボレート (p.37)	☑☑ データーダンブ (p.34)	☑☑ バウンス (p.25)	☑☑ クオンタイズ (p.24)

◯ROOM	◯LIGHT	☑☑ チューニング (p.14)	☑☑ 音律の選択 (p.15)
◯HALL	◯CHORUS	☑☑ Hz/cent(%) 替え (p.14)	☑☑ 音律のキー(調) (p.16)
◯PRESET	◯TREMOLLO	◯HEAVY	
SURROUND	EFFECT	TOUCH CONTROL	TUNE TEMPERAMENT
☑☑ サラウンドの選択 (p.8)	☑☑ エフェクトの選択 (p.8)	☑☑ タッチコントロール (p.12)	
	☑☑ プログラムフィルター (p.33)		

71	Whistle L	Group2
72	Guiro S	Group3
73	Guiro L	Group3
74	Claves	Off
75	WoodBlock2	Off
76	WoodBlock3	Off
77	Hi Cuica	Group4
78	Lo Cuica	Group4
79	Mute Triang	Group5
80	Open Triang	Group5
81	Cabasa	Off
82	Jingle Bell	Off
83	Bell Tree	Off
84	Castanet	Off
85	Side Stick	Off
86	Talko Lo	Off
87		
88		
89		
90		
91		
92		
93		
94		
95		
96		
97		
98		
99		
100		
101		
102		
103		
104		
105		
106		
107		
108		

値の変更
2つのスイッチを同時に押す:
ミュート (p.23)



+ / UP
PART MUTE
- / DOWN
SELECT / VALUE

外ロノームオン/オフ (p.10)	テンポの調節 (p.10)	拍子の選択 (p.10)	外ロノームの音量 (p.11)	ソングの選択 (p.17, 19)	パートの選択 (p.17, 22)	
外ロノームアクセント音 (p.11)	レコーダーの同期 (p.36)	パートのMIDI ch. (p.32)	パートの音量 (p.22)	ソングの消去 (p.26)	パートの消去 (p.26)	
RESET	METRONOME	TEMPO	BEAT	METRO VOLUME	SONG	PART
REPEAT	START/STOP	RECORD	REW	FF	REPEAT	DEMO
リセット (p.19) 設定の初期化 (p.52)	再生/停止 (p.18, 20)	録音 (p.17) 録音モード/メモリー残量 (p.29)	巻き戻し (p.20) 自動ハンチイン小節 (p.28)	早送り (p.20) 自動ハンチアウト小節 (p.28)	繰り返し再生 (p.20)	デモ演奏 (p.5)

6. LED画面のメッセージ

メッセージ



レコーダーを外部クロックに設定しているときに[TEMPO]スイッチを押したときに表示されます。



内臓バックアップバッテリーの電圧が低下しています。最寄りのサービスセンターまたは販売店にお問い合わせください。

7. 設定の初期化

1つのソングのパートの音色、サラウンド、エフェクト、ボリューム、MIDIチャンネルの設定と、ペダルの設定を初期化することができます。パートのMIDIチャンネルを変更したり、データファイラーで演奏データを読み込んだりして音が思うとおりに設定できなくなったときや、ペダルが正しく効かないときは、初期化してください。

パート	パートの音色	サラウンド	ボリューム	MIDIチャンネル
1~9, 11~16	PIANO1	PRESET	127	1~9, 11~16
10	DRUM Kit	PRESET	127	10

1. [SONG]スイッチを押した後、[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して初期化するソングを選びます。

ペダルはすべてのソングに対して共通に初期化されますのでペダルを初期化する場合は、パートに音色を選んでいないソングを選んでください。

2. [MIDI]スイッチと[RESET]スイッチを同時に押すと、初期化されます。



ペダルを踏まないでください。

8. 故障とお思いになる前に

症 状	対 策	参照ページ
電源が入らない	電源コードを適切なコンセントに差し込んでいますか？	4
	電源スイッチがオンになっていますか？	4
	それでも電源が入らない場合は、最寄りのコルグ製品販売店にご相談ください。	
音が出ない	本機の[MASTER VOLUME]スライダーが上がっていますか？	4
	ヘッドホンのプラグが差し込まれていませんか？	4
	パートの音量が“0”になっていませんか？	22
	ミュートしていませんか？	23
	ローカルオンになっていることを確認してください。	32
音色が変わらない	[DEMO]スイッチをオフにしてください。	5
音が途切れてしまう	本機の音色は、元になる楽器の音をサンプリング(録音)し、分析/加工してつくられています。音色によって1つの鍵盤を押すと、サンプリングデータの1つを鳴らす音色と、2つを鳴らす音色があります。[PIANO1]と[BASS]の一部の音色で2つのデータを鳴らします。これらの音色を選ぶとダンパーペダルを踏んでいるときも含め同時に発音させることができる音数は16音となります。それ以外の音色では最大同時発音数は32音となります。また、レイヤーにして同時に2つの音色を鳴らすときのサンプリングデータを1つ使っているか2つ使っているかで最大同時発音数は異なってきます。たとえばサンプリングデータを1つ鳴らす音色と2つ鳴らす音色を組み合わせると最大同時発音数は10音になります。レイヤーや、レコーダーに複数のパートを録音する場合は音色の組み合わせを上手に選んでください。	
ペダルの効果が正しくかからない	電源オン時や、設定の初期化を行ったときにペダルを踏みませんでしたか？	4,52
	ペダル用コネクターがはずれていませんか？	39
ソステヌートペダルの効果がかからない	録音モードに手動パンチインが選ばれていませんか？	27
	ペダル用コネクターがはずれていませんか？	39
再生できない	本機の設定が“In”(内部)になっていることを確認してください。スレーブ(同期される側)機として使う場合は、“E”(外部)にして、外部機器がMIDIクロックデータを正しく送信するようにしてください	34
録音できない	レコーダーの空き領域は十分にありますか？	29
	録音モードの設定が合っていますか？	27
	本機の設定が“In”(内部)になっていることを確認してください。スレーブ(同期される側)機として使う場合は、“E”(外部)にして、外部機器がMIDIクロックデータを正しく送信するようにしてください。	34
送信されたMIDIデータにตอบสนองしない	MIDIケーブルがすべて正しく接続されていることを確認してください。	30
	送信機器と同じチャンネルで本機がMIDIデータを受信していることを確認してください。	31
	MIDIチャンネル(パート、グローバル)は合っていますか？	32,33
鍵盤を弾いても指定したドラム・サウンドが出ない	[KEY TRANSPOSE]スライダーが“C”になっていることを確認してください。	13

9. 索引

ア行

移調	13
上書き	27
音色グループ	6
音色セレクター	6
音律	15
キー	16
音量	4

カ行

重ね書き	27
キートランスポーズ	13
共鳴効果	9
クオンタイズ	24
グローバル MIDI チャンネル	33
コントロールチェンジ	34

サ行

再生	19
音色の変更	19
テンポの変更	19
サラウンド	8
消去	26
ソング	26
パート	26
Macintosh への変換方法	45
ストレッチチューニング	16
セーブ	34
データファイラー	34
設定の初期化	11, 52
接続	30
MIDI 機器	31
オーディオ機器	30
コンピュータ	36
シンセサイザー	30
セント (cent)	14
ソステヌートペダル	9
ソフトペダル	9

タ行

タッチコントロール	12
ダンパーペダル	9
データダンプ	34
データファイラー	34
デモ演奏	5
テンポ	10
同期	35
ドラムキット	6

ハ行

ハーフペダル	9
バウンス	25
バックアップバッテリー	iii
パンチイン/アウト	28
自動	28
手動	29
ピッチ	14
拍子	10
複数のパートの録音	22
音量	22
プリリアンス	8
プログラムフィルター	33
ペダル用コネクター	iii, 39
ヘルツ (Hz)	14

マ行

マイナスイオン	23
マルチティンバー	32
ミュート	23
メトロノーム	10
アクセント音	11
音量	11
テンポ	10
拍子	10
メモリーの残量表示	29
モジュレーション	8

ラ行

リピート	20
1 曲全体	20
A-B 区間	21
レイヤー	7
音量	7
注意	19
ペダルの設定	9
ローカルオン/オフ	33
ロード	34
データファイラー	34
録音	17
録音モード	27

A

Apple Macintosh	36
-----------------	----

B

[BASS] 音色リスト	7
--------------	---

D

DRUM KIT	7
[DRUM KIT] マップ	50

I

IBM PC (互換機)	36
--------------	----

K

KORG MIDI Driver	41
------------------	----

L

LED 画面のメッセージ	52
--------------	----

M

MIDI	31
MIDI チャンネル	32

N

NEC PC-98	36
-----------	----

T

TO HOST	36
---------	----

10. 仕様

鍵盤	88鍵
タッチコントロール	ライト、スタンダード、ヘビー
音源システム	aiスクエアシンセシスシステム
最大同時発音数	32/16*1
音色プログラム数	ROM : 7 +Bass 8 +GM Dr 1
音色プログラム(グループ)	ピアノ1、ピアノ2、エレクトリックピアノ、ハーブシコード ピブラフォン、オルガン、ストリングス、ドラムキット、ベース(8)
エフェクター	サラウンド(ルーム/ホール/プリセット)、エフェクト(コーラス/トレモロ)
レコーダー	16トラック、10ソング(最大記憶容量31,000ステップ) <リセット、スタート/ストップ、レコード、REW、FF、リピート、ソングセレクト、パートセレクト>
メトロノーム	メトロノーム、テンポ、ビート、ボリューム
ディスプレイ	8セグメントLED × 3
ペダル	ダンパー*2、ソフト*2、ソステヌート
接続端子	アウトプット(L/MONO、R)、インプット(L/MONO、R)、ヘッドホン × 2、MIDI (IN、OUT)、PC I/F (TO HOST)
コントロール	マスターボリューム、パワースイッチ、プリアンプ、キートランスポーズ、チューニング、テンペラメント
メインアンプ	30W × 2
スピーカー	16cm × 2
電源	100V
消費電力	70W
外形寸法	1,370(W) × 476(D) × 835(H)
重量	53kg
付属品	高低自在イス、ヘッドホン
オプション	ih. AG-001A/002/003/004

*1: 音色や、レイヤー設定時には少なくなることがあります。

*2: ハーフペダルに対応しています。

- Apple MacintoshおよびMIDI Manager, MIDI Driver, PatchBayは、米国アップルコンピュータ社の登録商標および商標です。
- IBMは米国IBM社の登録商標です。
- MIDI Playerはパスポートデザイン社の商標です。
- MS-DOSおよびWindowsは米国マイクロソフト社の登録商標および商標です。
- PC-98シリーズは日本電気株式会社の商標です。

アフターサービス

■製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一保証期間内に、製造上の不備による故障が生じた場合は無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし次の場合の修理は有償となります。

1. 消耗部品（電池など）を交換する場合。
2. 輸送および移動時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
3. 天災（火災等）によって生じた故障。
4. 故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
5. コルグ・サービスステーションおよびコルグ指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が不適当であった場合。
6. 保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
7. 保証期間が切れている場合。
8. 日本国外で使用される場合。

■当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3ヵ月以内に限り無償修理いたします。また仕様変更に関しては有償になりますのでご了承ください。

■お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証書は引き続きお使いいただけます。移転先のコルグ製品取扱店、またはコルグ・インフォメーションまでお問い合わせください。

■保証期間が切れますと修理は有償になりますが、引き続き製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品（電子回路など）は通常8年間を基準に保有しております。ただし外装部品（パネルなど）の修理は、類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。

■その他、アフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

▼▲▼▲▼▲▼ 株式会社コルグ ▼▲▼▲▼▲▼

インフォメーション	〒168 東京都杉並区下高井戸 1-15-12	☎(03)5376-5022
東京営業所	〒168 東京都杉並区下高井戸 1-11-17	☎(03)3323-5241
名古屋営業所	〒466 名古屋市昭和区八事本町 100-51	☎(052)832-1419
大阪営業所	〒531 大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川 5 番館 7F	☎(06) 374-0691
福岡営業所	〒810 福岡市中央区白金 1-3-25 第2 池田ビル 1F	☎(092)531-0166

■修理等のお問い合わせは最寄りの各営業所、または下記までお問い合わせください。

営業技術課 〒168 東京都杉並区下高井戸 1-15-12 ☎(03)3309-7004

<WARNING!>

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

(この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。)

KORG

■本社：〒168 東京都杉並区下高井戸 1-15-12 ☎(03)3325-5691 ■インフォメーション：〒168 東京都杉並区下高井戸 1-15-12 ☎(03)5376-5022
■東京営業所：〒168 東京都杉並区下高井戸 1-11-17 ☎(03)3323-5241
■名古屋営業所/ショールーム/スタジオ：〒466 名古屋市昭和区八事本町 100-51 ☎(052)832-1419
■大阪営業所：〒531 大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川 5 番館 7F ☎(06)374-0691
■福岡営業所：〒810 福岡市中央区白金 1-3-25 第2 池田ビル 1F ☎(092)531-0166